

建築と社會

昭和24年3月19日第3種郵便物認可 昭和28年3月25日印刷 昭和28年4月1日發行

The Architectural Association of Japan

新建築紹介

IF I WERE DOING IT OVER AGAIN 1

HOUSE BY RICHARD NEUTRA 4

三和銀行京都支店 5

浪花座 7

記事欄

座談會第三回「これからの建築技術の學校教育はどうあるべきか」.....日本建築協會教育委員會 10

飛騨白川紀行.....記念事業見學部委員 17

私たちの建築史(4).....林 野 全 孝 30

THE RISE OF THE CITYと
INTELLECTUAL HISTORY.....徳 田 順 33

會 報 35

日 本 建 築 協 会

Vol. 34
1953

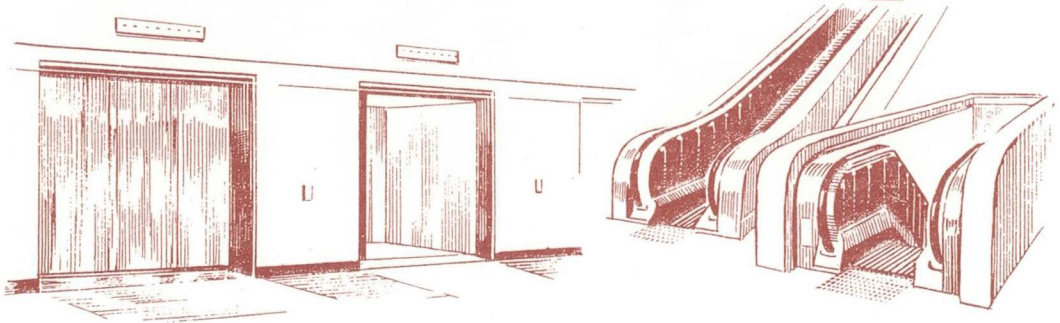
4

HITACHI

快適な運行!



日立エレベータ



各種 エレベータ 電動階段 ダムウエータ

東京 大阪 名古屋 福岡 仙台 札幌

日立製作所

シックで清潔!

サンウォール
(珪瑯化粧板)

新感覚の建築の

SUNWALL



は新しい資材の利用

により一層輝きを増します

日進月歩の建築界に
サンウォールの出現は
新しい一頁を書き加へ
ました。

サンウォールの高性能は次の三つの点で然も経費
の節減になります。

- | | |
|--------------|--------------|
| ①軽くて丈夫で施工が簡単 | 最近主なる完成例 |
| ②耐火・耐水・耐薬品性 | ・大阪ごろう百貨店1階庇 |
| ③色調自在で褪色せず | ・東京野村證券ビル化粧室 |

カタログ贈呈

・東京営業所
・名古屋代理店

千代田区霞ヶ関3の3 (鋼鉄ビル) 電話銀座6111~5

日商名古屋支店(中区木曽町8の33) 電話本局3175)



(用途)住宅…厨房、浴室、便所、子供室、家具調度：公共建築 ビル、エントランス、学校、事務所、工場、劇場、各種商店等人の出入の多く清浄を必要とするところ

本社 大阪市北区宗室町1大ビル7階758号 電話土佐堀(44) 1115・5520

工場 兵庫県明石市大久保岡大久保産地111 電話 大久保 39

サンワタル工業株式会社

アメリカ式技術を導入し日本で初めて完成され各界に一大センセーションを巻き起してみます

住友電気工業株式会社大阪製作所見学会開催

四月の催として下記要領により住友電気KK大阪製作所を見学する。同社の優秀なる電線が内外に拡く使用されている事は周知の通りであるが、これが製造工程の実況をつぶさに見学することは建築関係者として有意義と考え此企画をたてた。好機逸せず各部門から多数参加されんことを待望する。

1. と き 4月25日(土) 午後1時晴雨不論
1. 集 合 所 大阪駅西出口附近
1. 見学先往復 1時15分借切バスにて出発し、凡そ4時半頃同所に帰着(集合時間厳守励行)
1. 見 学 住友電気工業株式会社大阪製作所 広さ八万余坪の敷地内に建設されてある数万坪に及ぶ各工場建物並にビニール線外各種電線製造工程外、当日は特に人工雷試験室に於いて雷が電線に及ぼす影響等実験見学
1. 申 込 切 4月20日迄会費と共に申込のこと。但バス満員次第で切る。
1. 整 理 会 費 ￥ 30.00申込と同時に払込のこと

昭和 28 年 4 月 10 日

日本建築協会 会勢委員長 浅 沼 猪 之 吉

- 本見学は会員に限り、代人お断の事
- 見学先関係各位に本会員である事を認識して頂く必要上各見学には是非会員章の着用を願います。

創 立 年 記 念 事 業 後 援 申 込 芳 名

2月号掲載以後御申込を受けました芳名を列記し深甚の謝意を表します。

昭和 28 年 3 月 20 日

記念事業委員長資金部長 東 畑 謙 三

申 込 芳 名 並 金 額 (申込受付順)

石 原 政 三 殿	300
山 口 久 五 郎 殿	1,000
浦 外 雄 殿 (兵庫)	300
岩 橋 楠 松 殿 (中国)	300
サンエス石膏株式会社 殿	3,000
児 玉 充 弘 殿 (兵庫)	300

以 上 (自1月20日至3月20日)

本月合計 5,200

建 材 審 査 証 明 書 発 行 の 件

予て申出中のラテイ（釘）並にデコラにつき審査の結果下記の通り証明発行した。

(1) 1. 品 名 特許「ラテイ」釘

1. 製 品 会 社 株式会社 片 山 鉄 工 所

昭和28年1月24日提出された資料につき本会建材審査委員会に於て審査の結果別記特徴に依り優良と認める。

昭和28年3月2日

特 徴

(1) 引抜抵抗が大である。(2) 一本当りの重量を(約75%程度)減少せしめ尚且つ剪断力に対しては丸釘に劣らない。(3) 捻釘の性質を取入れたアイデアが優れている。以上

(2) 1. 品 名 「デコラ」メラミンプラスチック化粧板

1. 製 品 会 社 住友化工材工業株式会社

昭和28年2月6日提出された資料につき本審査委員会に於て審査の結果別記特徴に依り優良と認める。

昭和28年4月15日

特 徴

1. 色彩と模様が自由である。
1. 耐熱難燃性である。
1. 硬度が高く強靱である。
1. 化学薬品類に浸され難い。
1. 吸水度がなく表面硝子様であるため汚れない。

社団法人日本建築協会々長 竹 腰 健 造 建材審査委員長 置 塩 章

尙目下審査中のもの東洋スレートKK波形スレート。殺虫塗料キコート。ハネル離型剤等である。斯界向上発達の
ため新旧資材続々として審査申込ある様会員各位並業者各位の御協力を熱望している。(審査委員)

地 質 調 査 図 表 頒 布

昨年来準備中の大阪を中心とした地質調査図表が漸く印刷を終り目下製本中茲五月五日より頒布いたします。

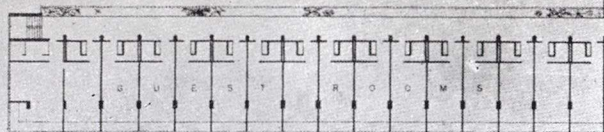
予約申込を受けた各位に対し遅延お詫びします。予約以外にも若干増刷しましたから御希望の向へは下記により御
頒ちいたします。

B5型、総頁 一冊 ￥1,200 送料市内 ￥50 市外 ￥100

本会員に限り一部 ￥1,000 (但し送料別)

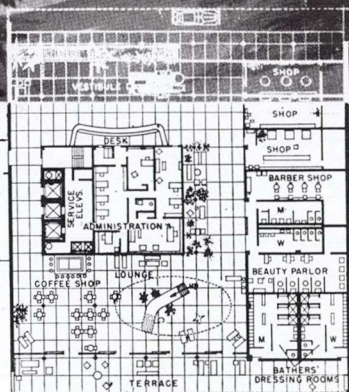
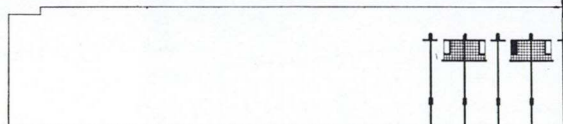
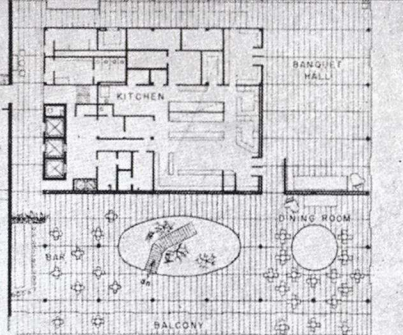
28.4.20

35年記念事業出版部長 尾 崎 久 助



SECOND FLOOR

0 25 50 75 feet



IF I WERE DOING IT OVER AGAIN

EL SALVADOR HOTEL

(forum 1, 1953)

設計 EDWRD D. STONE

構造 FRED N. SEVERUD

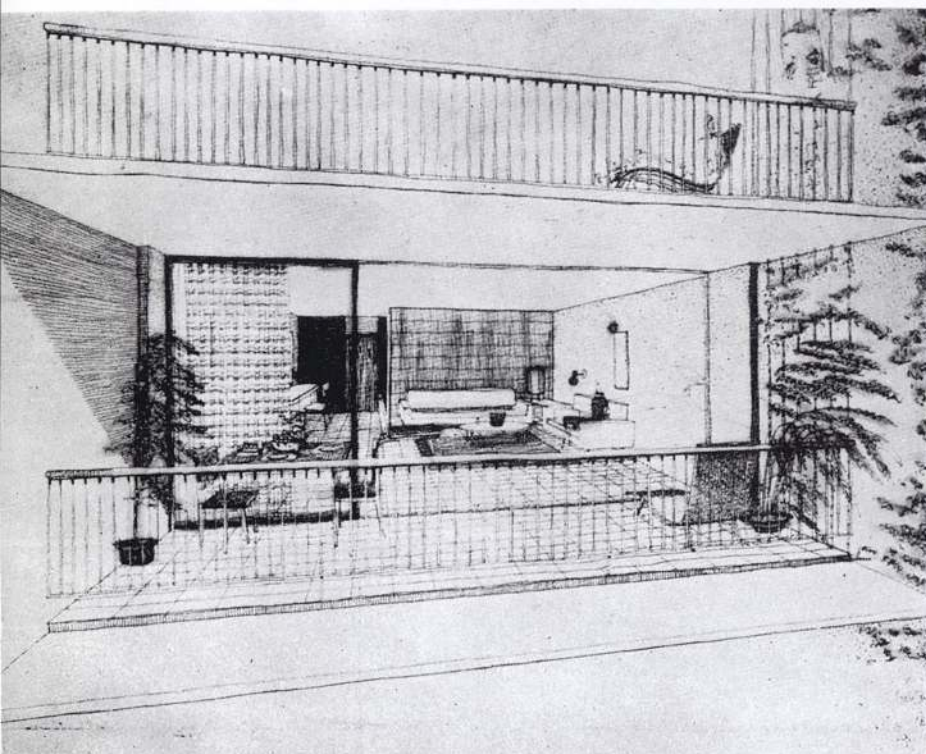
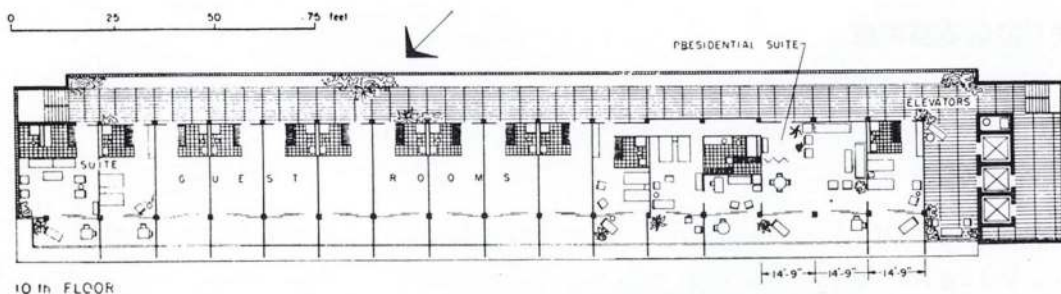
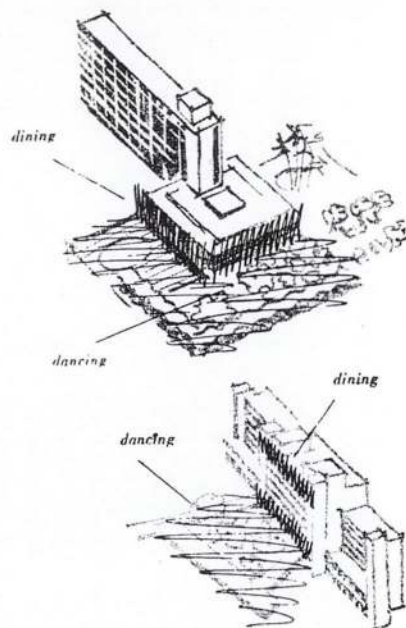
この紹介は、STONE がもし Panama ホテルを新しく設計したら、どうするだろうか？疑問がありました。丁度彼が Salvador で同じような機能の新しいホテルを設計委任されていたので、彼は Salvador ホテルの計画を模型によつて示し、ここの疑問に答えました。

彼は建物の上下に Public area のある月並なホテルの計画を捨て、代わりに客間を10階の寝室のスラブに掛け、Public space をその床の一端に別棟として設けました。こうして、常に客を悩ました酒盛りのパカ騒きからかくりしました。動線計画を巧妙にホテルの行きとどかないサービスを効果あるように、入口とエレベーター（及び、料理室、サービスエリア）を寝室とサービス、スペースとの結合点に設けました。こうして更に、騒音が寝室へ入るのを防いだのです。

彼は又、空気調節装置を用いませんでした。エレベーターの前はすつと開放されたバルコニーによつて客間に通っています。又客室は開け放つと、熱帯性のやわらかい風によつて、たえず換気されるようになっています。

Salvador は商人用のホテルです。だからほとんどの部屋は、寝室、居間兼事務室となつています。

しかしホテルの全てが、商業的なものではありません。バルコニーからの眺めはすばらしく、住居区に向うに火山が見え、又プールや戸外舞踊場やカクテルテラスや、レストランは、ビジネスの会期が終つた時、くつろぎを与えることでしょう。



上右の図は、Public Space が別になつて、騒音をかくりしている Salvador と、そうでない Panama との比較である。左図は手摺のあるバルコニーにより開放された室を示す。大きいガラスの戸が、部屋とバルコニーを一つの大きなエリアとしている。



協同している芸術家

「このホテルは、コルビジエーが『住む機械』と言ったのに対し『住む博物館』と呼ばれるでしょう。」と Stone 自身が言う程豊かに芸術が用いられ、芸術家がたすさわつています。

New York Herald Tribune 紙の芸術批評家 Emily Genauer は次のような記事をのせています。

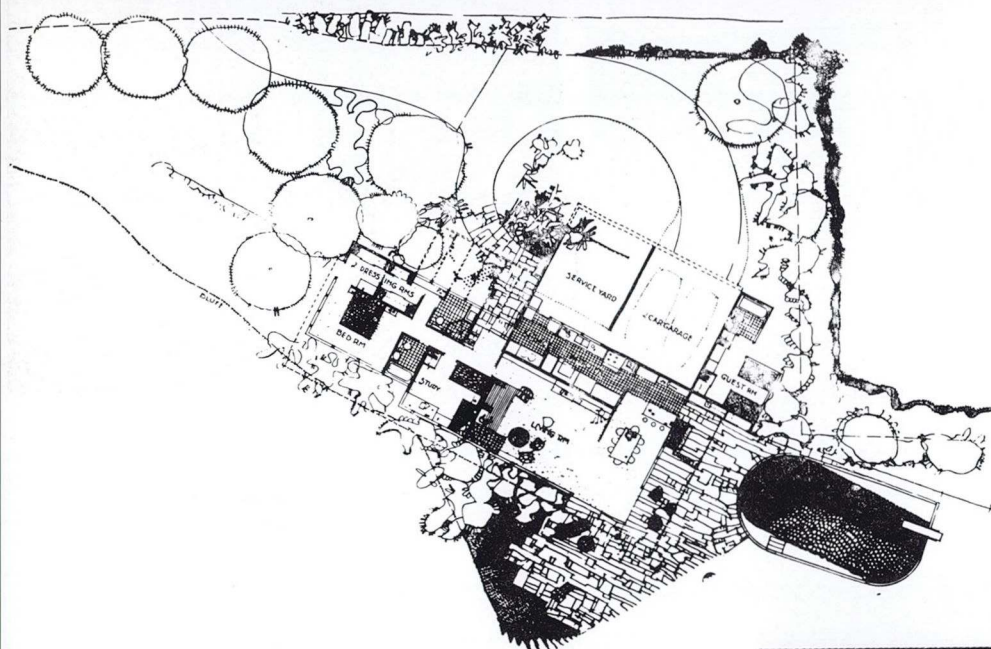
「Alexander Calder は、その主要なロビーのために、驚くべき想像力に富んだ熱帯庭園を設計した。種々の色をした、珍妙な植物が、楕円形の器の中に天井から微妙なつりあいできれいにつけられている。

Max Spivak は面白い寄せ木細工の床を工夫した。José Rivera は浮上ったり沈んだりする板の結合と近代的な感覚が、レモンの皮の美しくちぎれているのに似た自由な形のプールを構成した。彼は又、食堂の明るい装具として彫こくも設計した。

ホテルの前の楕円形のドライブウェイで囲まれたエリアの中には、Mayan の石の彫刻をしのばせるようなセトモノのような彫刻の建築がされるだろう。メキシコの画家タマヨが、ホテルのロビーのために、大きい壁飾りを画くだろうし、又イサム・ノグチが、その智工の光を働かすだろう。」と。

上図に見るランターンは、東洋風なチョウチンを思わせるのは興味深い。イサム・ノグチの設計である。又寄せ木細工の床は、このゲリルからプールのまわりの外側のテラスまでひろがっています。

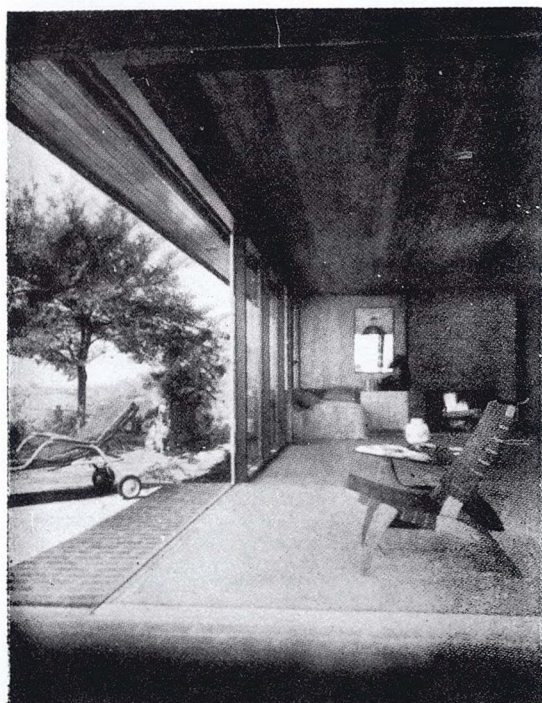




HOUSE BY RICHARD NEUTRA

ARTS & ARCHITECTURE 1.1933

この住居は、若い夫婦が建てたものである。中位いの資金で、いろいろ考え求めた末、二人は、Santa Monica 山の上に安い敷地を求めた。この家はあめりか杉で建てられている。風光は大変良い。二台の自動車は、彼等をどこへでも運べるし、又客人を運ぶことが出来る。プランは、living Room の一角が玄関になっており、その前に巨大なプールがある。大きいガラスのすべり戸が、最も大事な景色の見える方に向き、補装は室外から室内のセメント床に続いている。(下図)。台所は特に念入りに造られている。そこでは自分で好きな料理が作られ、セルフサービス用になっている。





三和銀行京都支店

位 置 京都市下京区四条通烏丸西入
 設計監理 三和銀行建築課 (技師長白石登喜男、技師西田芳一、加藤宜彦、係 鈴木匠、鈴木弥市、池田一男、岸村保寿、白井重一、渡辺皓、小林貞彦)
 施工主体工事 株式会社大林組
 電気工事 栗原工業KK 衛生工事 須賀工業KK
 冷暖房工事 KK大阪電気暖房 木工事 山本組
 エレベーター 三菱電機KK、東洋オーチスKK
 コンベアー及気送管工事 大平洋行
 電話工事 三和電気工業KK
 ネオン工事 大平広告KK
 金庫工事 富士精工KK、日本ファイリングKK
 鉄骨工事 松尾橋梁KK、KK駒井鉄工所
 大理石工事 KK矢橋大理石店 瓦工事 山岡組
 左官工事 浪花組 石工事 熊取谷石材工業KK
 工 期 1951・6・22→1952・12・19
 敷地面積 743.201坪 (2456.86平方米)
 建築面積 460.764 (1523.19平方米)
 構 造 鉄骨鉄筋コンクリート造
 階 数 地下1階・地上5階
 軒 高 地上23米 塔屋最高 地上27.90米
 1階面積 386.682坪 (1278.290平方米)
 計 1848.615坪 (6111.143平方米)

電気設備

配電設備 地中1回線をもつて高圧受電を行い他に予備ケーブル1回線を設置す。停電時には「ディーゼルエンジン」を起動せしめて必要回路に送電す。
 高 圧 盤 4面 低 圧 盤 4面

進相閉 OF 蓋電器 3,300V 3相 60サイクル 100KVA 1台

変電設備 動力用変圧器 75KVA 3,300/220V 単相 60サイクル 3台 電灯用変圧器 30KVA 3,300/100V 単相 60サイクル 3台 誘導電圧調整器電灯用 15KVA (出力75KVA) 3,300V 3相 60サイクル 1台 水銀整流器 交流側 220V 3相 60サイクル 直流側 24~35V 30A

発電設備 デイゼル発電機 1台 機関 120馬力 720 P.R. M 6気筒 発電機 80KVA (64KW) 220V 3相 60サイクル 石油エンジン空気圧縮機 2馬力 発電機盤 1面 切替盤 2面 単捲変圧器 出力 20KVA 220/100V

電灯設備 一般照明 白熱灯 349個 蛍光灯 246個 コンセント 200V 10個 100V 208個

電話設備 局より特殊引込 100回線を有し、対自動式 局共電式交換台 4座席を設備す。

電気時計 常時は外部より供給される交流電源により充電せられるバッテリーにより親時計を駆動せしめ、制御は N.H.K より発信せられた時報を受信して自動的に調整する。

電波制御真空親時計 1台、子時計26ヶ所

インターホン リレー式 4回路配電盤 1台

諸信号設備 金庫開閉信号灯 金庫保護装置 特殊警戒装置 拡声機 電鈴 非常信号装置

昇降設備

90米/分	定員	10名	自動式	1基
90米/分	"	10名	手動式	1基
厨房用リフト、	現金リフト			各1基
避雷針設備	屋上に			4基を設置



外 装 仕 上

東側外壁 (烏丸通)

北木島産花崗石小叩仕上

正面玄関 万成石本磨

南側外壁 (四条通)

北木島産花崗石小叩仕上

西 側 // 北木島産花崗石砕石入白セメン

ト人造洗出仕上

北 側 // 同 上

塔 屋 // 同 上

陸 屋 根 防水層押えコンクリート打クリ
ンカータイル張り

出 入 口 ステールドアー及ステールシャ
ッター併用

側 窓 同 上

面 格 子 鋼製ラッカー吹付仕上

丈 走 花崗石貼

内 装 仕 上

	室 名	床	巾 木	腰	壁	ハ ー
	金 庫 室	人 造 石 研 出	人 造 石 研 出	石膏プaster	石膏プaster	石膏プaster
1	客 溜	テラゾー研出 眞鍮目地入	大 理 石 (榮 尾)	大理石 (土佐錦)	大理石 (土佐錦)	軽量鉄骨二重天井 ラス張りモルタル 塗石膏プaster
	営 業 室	ゴムタイル	同 上	同 上	同上 (一部ベニ ヤ様)	同 上
	営 業 台	甲板大理石 (美 機 黒)		大理石 (イタリ ヤ産9号)		
	支 店 長 室	ゴムタイル	ベニヤ (テーク)		ベ ニ ヤ (柱)	石膏プaster
	便 所	人 造 石 研 出		白 タ イ ル	石膏プaster (人 造 石 研 出 ビ ニローセ吹付)	同 上
階	階 段	テラゾー研出	テラゾー研出		(人 造 石 研 出 ミ リオン吹付)	同 上
	廊 下	同 上	人 造 石 研 出			同 上
	湯 沸 室	人 造 石 研 出		人 造 石 研 出	石膏プaster	同 上
	事 務 室	リノリウム	モルタルペイント		同 上	同 上
2	宿 直 室	タタミ敷			同 上	同 上
階	会 議 室	リノリウム	モルタルペイント		同 上	同 上
	事 務 室	同 上	同 上		同 上	同 上
3	来 賓 室	ゴムタイル	ベニヤ (テーク)		ベ ニ ヤ (樑)	同 上
	大 会 議 室	同 上	モルタルペイント		レース張ペイント	同 上
階	電 話 交 換 室	リノリウム	同 上		石膏プaster	同 上
	廊 下	人 造 石 研 出	同 上		同 上	(一部テツクス)
	事 務 室	リノリウム	同 上		同 上	石膏プaster
4	和 集 診 室	タタミ敷			同 上	同 上
	会 議 室	リノリウム	モルタルペイント		砂 壁	同 上
階	診 療 室	アスタイル	同 上		石膏プaster	石膏プaster
	理 髪 室	モザイク 磁気タイル	同 上	石膏プaster (一部白タイル)	同 上	ベニヤカンレイ シヤペンキ
	事 務 室	リノリウム	同 上		同 上	石膏プaster
5	女 子 ロッカー 室	同 上	同 上		同 上	同 上
階	食 堂	アスタイル	同 上		同 上	同 上





浪花座

設計施工 清水建設株式会社

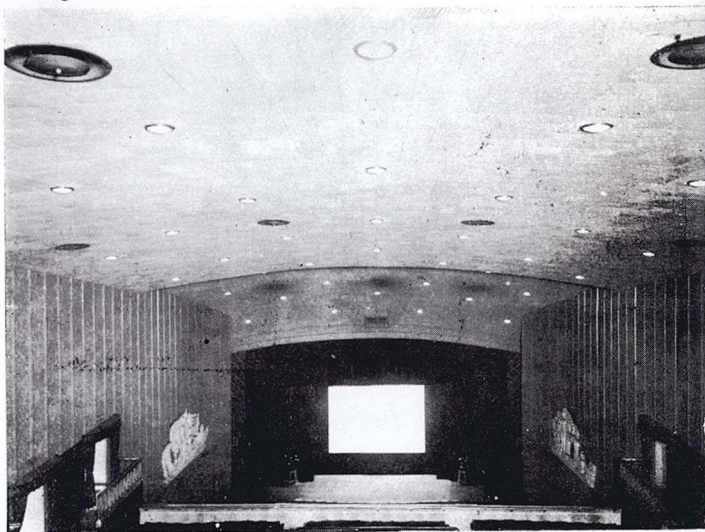


概要

大阪「道頓堀五座」の一つとして昔からその名を親しまれた浪花座は、此の度鉄骨及鉄筋コンクリート造として新築された。

座席数約1,500を有した四階建て地上高さ約17米1階約300坪、総延坪数約620坪を有す。暖冷房の設備を有し在来鉄筋コンクリート建物の一部を機械室として利用した。

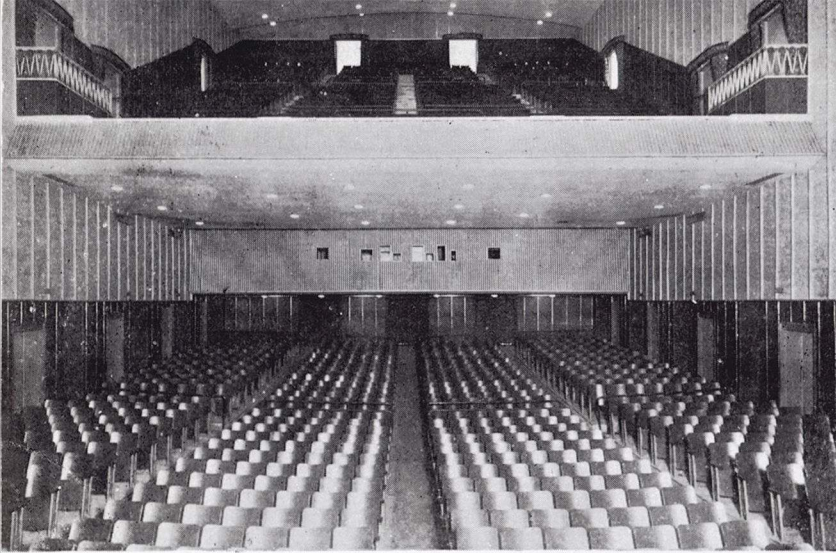
断面計画の特徴として映写室がギャラリーの下にあるため映写角度が殆ど零度で画面の歪はなく、映写距離が著しく短縮された。



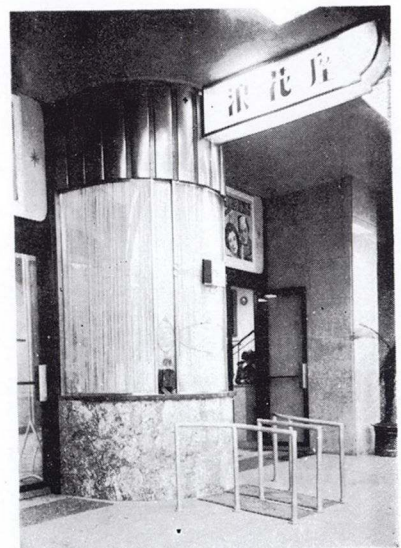
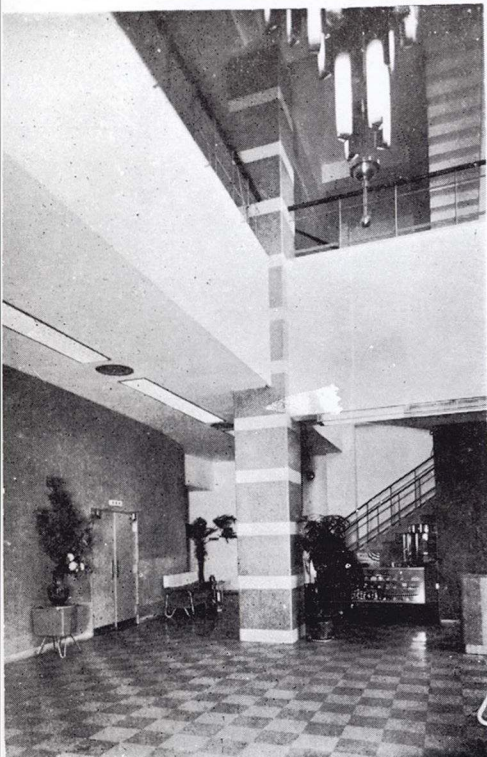
仕上工事

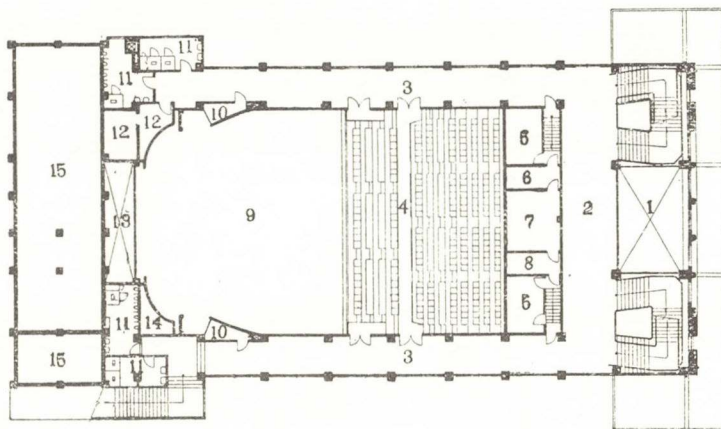
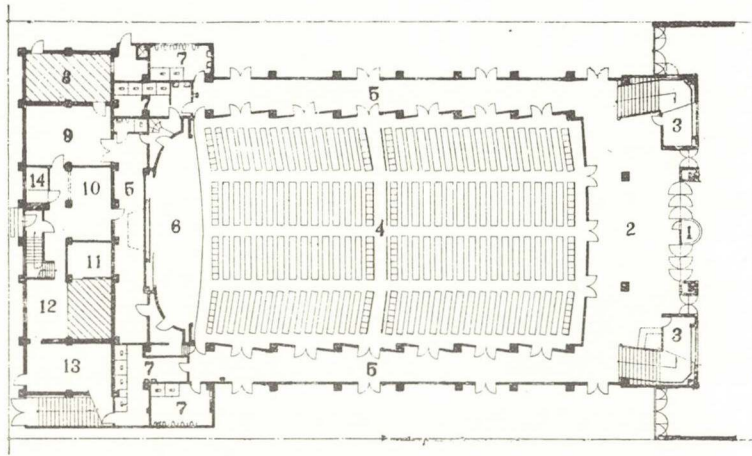
外部（正面）1階は万成石本磨庇
下珪石プラスター掻落仕上。
上部柱型廻人造石ブロック
其他四丁掛タイル貼。

内部（ホール）床、ゴムタイル敷
（赤青市松）壁、ビロード貼
（あずき色）天井プラスター
独立柱テラゾーブロック（オ
ニックス及トラバーチン横縞）
（オーディトリウム）
床モルタル塗、通路リノリ
ーム敷、
腰7尺ビニール貼ペンキスプ



レイ（ギャラリー）
大天井前部 蛭石プラスター
掻落
大天井後部 蛭石モルタル塗
の上アコースチックテック
ス貼水性ペンキ塗
（ギャラリー）
下天井 蛭石プラスター掻落
し
（映写室）
下天井 蛭石モルタル壁の上
アコースチックテックス貼
水性ペンキ塗（白）





平面図説明【一階】

- ① キップ売場
- ② ホール
- ③ 事務室
- ④ オーディトリウム
- ⑤ 廊下
- ⑥ ステージ
- ⑦ 便所
- ⑧ ボイラー室
- ⑨ デンキ室
- ⑩ 送風機室
- ⑪ エアウォッシャ室

- ⑫ ポンプ室
- ⑬ 冷凍機室
- ⑭ 宿直室
- ⑮ 裏出入口

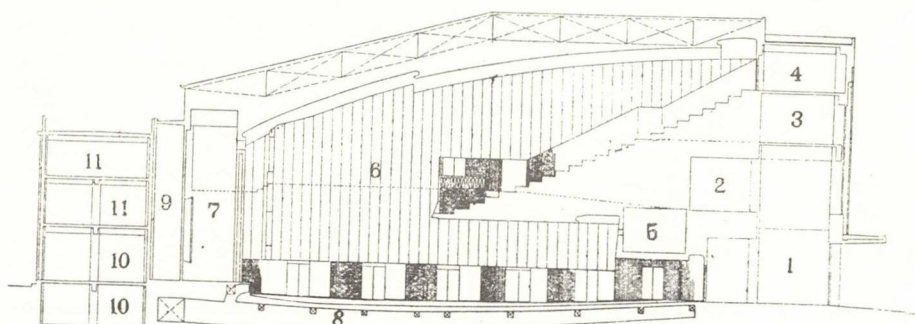
【二階】

- ① 一階ホール上部
- ② ホール
- ③ 廊下
- ④ ギャラリー
- ⑤ 更衣室
- ⑥ 映写技師室
- ⑦ 映写室

- ⑧ 整流機室
- ⑨ 一階オーディトリウム上部
- ⑩ スポット室
- ⑪ 便所
- ⑫ 照明調整室
- ⑬ 吹抜部分
- ⑭ ダクト室
- ⑮ 在来建物（別途用途に使用）

【断面説明】

- ① 一階ホール
- ② 二階ホール
- ③ 三階ホール
- ④ 四階ホール
- ⑤ 映写室
- ⑥ オーディトリウム
- ⑦ ステージ
- ⑧ ダクト
- ⑨ 通路
- ⑩ 機械室
- ⑪ 別途用途に使用



—座談会—「これからの建築技術教育はどう

(第2回・設計・綜合関係)

御出席者(五十音順・敬称略)

司会 中野順次郎(大阪市教育委員会指導主事)

設計側 竹腰 健造(双星社竹腰建築事務所)

渡辺 道輝(渡辺建築事務所)

渡部 圭吾(渡部建築設計事務所)

建設業側 岡本 弘(KK浅沼組)

喜多 宗達(KK奥村組)

日野 勝好(KK竹中工務店)

藤塚 賢一(佐藤工業KK大阪支店)

松村 雄吉(KK松村組)

吉野 与作(西松建設KK関西支店)

渡辺 勇(KK間組大阪支店)

学校側 磯部 正聰(堺市立工高)

犬東 徳郎(兵庫工高)

大倉 三郎(京都工芸繊維大)

篠原 太郎(大阪市立工芸高)

関原 猛夫(神戸大)

滝沢 真弓(大阪市大)

永井 実(布施工高)

長尾 勝馬(都島工高)

榎谷 好一(吉野高)

元良 勲(大阪工大)

安井 武一(伏見工高)

委員側 亀井 貴一(西野田工高)

益尾 辰雄(都島工高)

鷲尾 健三(教育委員会委員長)

鷲尾 早速ですが委員長として御挨拶申し上げます。本日はお忙しい所を有難う御座いました。此の会は御案内にも又2月号にも掲載しました通り、第2回の座談会でありまして、今後も数回続行する積りです。日本は人口だけは唯一の資源であるから人間を粗末にしては勿体ない。故に日本に都合の良い様な人間を育てる事を本腰で考えねばならぬ。色々の角度から、働く業界に適した教育を考えるのが第一の手段と思われる。業界の方の御意見を承つて、出発点を得る手懸りを得たいから御遠慮なく申して頂きたい。記録と言つても、一度御覧に入れて都合の悪い所は削るから、重複するけれど、ざつぱらんに仰言つて頂いて、将来の手懸りを得たいと思います。この前は私が司会をやりましたが、今日は中野先生に司会をして頂きます。

中野 今鷲尾委員長から指名があつたので、私が司会をします。本日これからお話を頂いて、これからの建築教育について色々の資料を与えられるよう御協力願います。御出席の方々はお話を承る際に、お名前なり御紹介を兼ねてお話しをして頂きたい。一応前からの連絡もありますので、先ず前回の模様を御報告する。雑誌の方でお読みの事と思うが、かいつまんでお話しすると、前回の主な話題は、初めに学校の制度が敗戦で変つた事について、第二に学校教育の面で生徒のしつけ人間に関する事、例えば礼儀作法が良くない、又勤務態度が良くないのは困つた事だと言う話があつた。これに対して、卒業生が多過ぎないか、需要と供給のバランスが取れて居ないのではないかとの話があり、第三に入社後、会社側としてどう云う教育法をやつて居るかが話に出て、次に、生徒の教育の仕方についてチームワークが欲しいとの注文があつた。次に先生方の方から学校では年限に縛られて建築教育は不充分だから、卒業後其れを続けて欲しいとの注文が出、次にデザインの教育で大変困つて居るとの学校のお話もあつたが之も大変厄介な問題である。その時にフランスの教育法が例にのぼり、視覚教育をもつとやつたらどうかと云う話が出た。更に学校に於いては最低線を何処に置けばよいか、之は大学と高等学校では異なるが、之に対して、水切とか、ドアの開け方は知つて貰わねばならぬとお叱りに近いものがあつた。次に今の教育年限では、構造とデザインを分ける事は難しいとの学校側のお話し、或は建築法規を中心にして学校でやればどうかとの提案があり、又建築士の試験問題は之では困ると云うお話しが出て、最後に学校側から卒業生を送り出す時に、見込みがあると推せんするが、成績全体が良くても、特技が無い事で落されるのは、人間教育として惜しい。之から伸びるのであるから見所ある所を取つて欲しいとの注文があつた。色々のお話しが出たが、結論を出さなくても、方向を見出せば良いと思う。

本日は、竹腰会長を初め、先輩の方々が御出席になつて居るので、沢山お話しを頂けるものと期待して居る。業界の方にはお忙しい所、学校の方も年度末お忙しい所御出席頂き感謝する。どうぞ活潑にお話しをして頂きたい。

本日の題目は(これからの建築技術の学校教育はどうあるべきか)と云う事で、どんな問題でも良し、又前回

あるべきか」—— 主 催

日本建築協会教育委員会——

時 昭和28年2月19日 自2時 至5時

於 大阪府労働会館

のものを否定しても良しどうぞ御活潑に願います。

滝沢 新しい議題に入る前に一つお願いがあります。私は今日ここへ顔だけは出しましたが、実はこれから学期末試験の要件で失礼せねばなりません。せめて今日はこの前の会の責任のためと、次回以後の希望のために出席した次第であります。

この前私は「結局人口問題だね」といいましたが、それは学校卒業生の就職問題というよりも、もつと根本的に日本文化の問題で、外国にて可能なことが日本で不可能という場合、結局この人口問題に突き当たる、という含みで申上げたつもりです。御参考までに、ここに資料をお目にかけます。少し古いですがアメリカの統計でして（A. P. Pictograph : People & Land, 1949）9エーカー単位に、ソビエトが1人、アメリカ1.5人、イタリア7人、ドイツ8人、戦後4つの島にとじ込められた日本は何と34人。悲壮と申すの外はありません。

次に、今後のお願というのは、この座談会は引つづきお催しの趣、ついてはどうか若い連中の意見も聞いていただきたい。こういう会には夫々の機関の主脳者のみの意見が出る傾向がありますが、若い下積みの中、学校から社会へ出たばかりの連中などの活ばつた意見をも是非お聞き願いたいのであります。

中野 唯今滝沢先生から、人口密度抜群のお話を承つたが、この事をお含みの上皆さんの考えを述べて頂きたい。一寸最初だけ私の方から指名致しますが、先ず竹腰先生に、概括的な問題を取上げて頂きます。

竹腰 突然でまとまつた事は云えないが、建築は特殊な技術で私の考えを述べると、先ず建築の学問をしようと言う人が、本当に建築家が社会でどんな事をするものかを知つて建築を振ぶかどうか、この辺を若い人は考えて居ないのではないかと思う。私の経験から云えば、こんなものを振ぶのではなかつたと後悔する向が多い。建築家は社会に於いてはこんなものであると言う事をよく知つて覚悟しないと不平不満が出来て来る。私自身について云えば、始め化学の実験をやつて、酸素、水素、窒素など出るのが面白かつたが、その中に窒素が鼻についてとうとう化学を止めた。3年の終りに仕方がないので建築に行こうと忖んで今日迄通して来た。最近住友の重役である或る知人の子息が、私が建築家として今日に及んでいる事を話して建築をやれと云われて、さて建築を

やつて見ると、こんなものをやるのではなかつたと云つて折角住友に入つたが去年止めて、もう一度法科をやりたいと云つて居る。父親は貴方が居つたために子供の一生を縮尻つた（笑声）と云つて居る。こんな人も多い。やつぱり学校に入れる時予め建築は世の中でこんなものだが入つてから後悔するなと確めてから入れるべきだ。建築も広範囲で、デザイン、構造、施工、法規があり、どれをやつても身を立てられるが、私は非常に異つた学問分野であり、之を一括して教える所に学校教育の難しさがあると思う。之を一期間に教育するのは難しいから、ある部門を限定して、自分の人生に於ける使命がどこにあるかを見付けて其処に進むべきだと思う。例えば施工に進むべき人がデザインや構造をやつても将来役に立たぬのではないか、基礎知識がすんでから専門的な事をやるべきだ。設計の方から云えば、構造と物を工夫するデザインと両方を兼ねる人は、天才は別だが、学問が異つた性質であるから難しい。はつきりした行き方を学生が決めるべきではないか。教育の在り方について私はこう考える。もう一つ、最近の学生に就いて、親が相談に来るが、子供達が建築にはどんな分野に在るか知らない。事務所、会社、官庁の営繕、施工等とあるが、どれを振ぶかは問題である。設計をやる人は事務所を持てば良いが、之は恵まれた人だけが出来る事である。殊に設計で産を成さんとする事は先づ困難だ。又有名な建築にたずさわって、後世に残そうとするチャンスも仲々少ない。施工の方に行く人は自分で請負をするチャンスを持てば、社長にもなれるが、官庁の技術者は大臣にはなれない。会社の営繕をやれば、建築物は会社の営利の方ではないから重役にはなれない。こんな風に考えると、建築家として世の中の最上層に上る機会がないことにびつくりするが、之は建築の世の中に於ける位置を知らないからである。之等について学校の先生から説明が足りないのか、お話しして居られないのではないかという気がする。次に一般に若い人はいきなり大家の真似をする人が多い。絵の方でも私の甥だが、電気の方を高工を出て東芝に入つたが、復員後、真面目な仕事で厭になり運転手もやり遂に絵を描き出した。次にどう転換したのかアブストラクトをやり始め新聞で騒げて、1年も経たぬ中にアブストラクトの大家になつてしまつた。今の若い人々は、「図面が上手なだけが建築家ではない。上手に図面

が描けなくても、頭の中でさえ図面が描けたら建築家」
と思っている人が多い。修業時代はそんなものではない。
マチスもいきなりあんなものを描いたのではない。

中野 今のお話で大分問題が出てきましたが、この
色々の問題を取上げて皆さんとお話を進めたいと思
う。この中で、建築をどんなものであるかを知らないで
漫然と入つて来る生徒をどんな工合に教え卒業させるの
か、この事について、大学の方で鷺尾、大倉、元良さん
が居られるが、鷺尾先生どうぞ。

鷺尾 今の会長さんの、入学の時に良く知らないで入
つて来るのではないかという事についてですが、私は新
制の方は余りよく知らない。旧制の方、新制なら教養課
程を終えて工学部の専門課程に入つて来る人々に就いて
だが、私の所は、残念ながら構築とか溶接工学科に入
つて来るのは点の余り良くない人達である。是非入りたい
から入つたと云うのは極く一部分であつて、試験は易し
いし、卒業後良さそうだ(笑声)と思つて来る人が多い
らしい。事務所か業界の人の子息で入つて来るのは初め
から覚悟して来るから、一般に成績が良い。成績の良い
機械や電気の人達に交つて、Aクラスを維持出来る人は
少いように思われる。就職の事も有るが、この前益尾さ
んから云われたように、高等学校でも建築は入り易い方
ではなからうか。

中野 元良さんの方はどうですか。

元良 私の方は私立であるから特殊性があるが、将来
デザイナーを夢見て入つて来る人が多いが、現実を知つ
て失望する。もう一つ建築では成功が容易でない。入
つてからでは手遅れだ。その前に建築とはどんなもので
あるかをもちと啓蒙することが必要だ。資格を取つて卒業
さえすればと漫然と入つて来る人が多いようである。

榎谷 私の学校は何分にも大都市より遠ざかつてい
る関係し入学に際しては、父兄や中学校の先生の意志も可
成り影響している場合が多い。併し今の1年生にして女
生徒二名が男生徒と机を並べて真面目に製図をしてい
る。これ等は始めから建築そのものをよく理解して入学
したものであつて誠に喜ばしき点だと思ふ。

大倉 入学前に本人の素質が向くかどうか調べられた
ら結構だと思う。又今の制度では、入試が競争であり、
入学してから後、自分は建築を志願したが面白くないの
で変りたいと申出る人も居る。

竹腰 そんな事は外の料では少ないようだ。

大倉 変りたい人はさうさせてやりたいと学校側に交
渉するが、今の制度では自由にならない。又自由にすれ
ば色々の問題が起ると思う。私の所はデザインを主とし
て居るが、入学要項にもこんな性質の人が望ましいと書
入れるが、希望に燃えて入つて来るのは半もいない。

鷺尾 半もあれば良い方だ。会長さんのお話に私も
同感だが、どうも「建築家は芸術家である」との世間の

先入観が禍いて居るのではないか、大部分はエンヂニ
ヤーであり、アーキテクトは極く一部分ではないか。世
間の人も考え直して貰わないといけなのではないか。

中野 鷺尾さんが新しい問題を出されたが一応後にし
て、篠原さんの方は。

篠原 今迄の方々のお話しの通りに、新制中学を出た
人達には職業コース選択の能力が無い。結局父兄が、景
気が良いとか、就職率が良いとかいう事で入れるので、
入学したら理くつを云わないで一生の職業的運命が定ま
つてしまうことになる。結局学校を択ぶのは父兄の意志
による。業務をやつて居る人の子弟は別だが、漫然と入
つて来るのが大部分である。

中野 こんな状態で入つて来る人を教えるのに、学校
側は苦勞して居るが、之に対して業界の注文はどんなも
のでしょうか。

渡部 学校教育では建築に限らず職場に適した人を作
るのが目的である。建築の職場は色々あり、意匠、構
造、見積等々性格が異なるが、その異つた所に適した人
を養成するのが眼目だから生徒の知性が構造に向くか、
デザインに向くかを調べなければならない。又個性の問
題も重要である故に、知性と個性と両方を選択してかか
る事が肝心である。小学校では個性に関する適性検査を
打棄らかして居るので、こんな問題にぶつつかるとはな
いか。個性的に選択する場所、方法を考え出さねばう
まく行かない。小学校、中学校、高等学校で専門的に調
べねばうまく行かないと思う。個性検査では、アメリカ
でやつて成績を挙げて居るらしいが、日本でもそれをする
団体、場所を作つて行かねばならないと思う。会社に入
つて間に合う人を作らねば問題にならんのではないかと
思う。本人も生活の糧にはならない。そのためには、
人間の選択が一番大切であり、専門的に調べて、お前な
ら何々の専門家になる知能と性格を持つて居ると云うよ
うな事を見極めてやる事が大切だ、漫然と入つて来る人
達を教えるのにうまく行かないと云つて居られるが、個
性、知性両方を研究して、入れて行かねば問題になら
ないと思う。人口問題が出たが、どんな人間でも住居をも
たなければならないのだ、人が多くなれば住居や職場が
多くなるから、心配ないと思う。ただ無駄な人間を作ら
ぬように。

篠原 私の学校で或年の入学生に適職検査をやつたが
(之の調べは不十分ではあるが) 75%が事務に適すると
いう結果が出て居る。技術系統に適すと出たら、我々も
楽だと思ふが、之等の人を3年間で技術家として出さな
ければならないので、苦勞する次第です。

渡部 建築の見積、積算は事務の方に近い。技術的な
事も要らないし、性格さえ合つて居れば、事務系統の人
にとつても建築を一生の職場としても充分な場所があ
る。

松村 とにかく学校で建築をやろうとする人には、遠慮なしに教えて欲しい。卒業の時に請負に向くか、設計に向くか、特質に応じて方針を決めればよい。建築は煎じつめれば良い商売ではないが、本当の事を云えば入って来る人はなくなる。(笑声)店の人は月給を貰って居れば良いのだから楽だが、建築の大御所の子息は建築に入れないようである。煎じつめれば責任者になればつらい商売だ。腕のある人で金もうけしようと思えば自分でやれば良い。

日野 松村さんの仰せられた後をついで一言申述べます。先ず私は使われる身分で結構満足するのが最も適合している様です。(笑声)

私の経験では、学校出の方々が実際に役立つのは、学校を出てから随分永い間経ってからである。教育としては一般教養を少くして、技術の方を徹底的にやれば良くなると思うが、事実それが出来なければ寧ろ常識のある体の良い人を作ればよいと思う。家風に合うような人間に仕立てるには、少なくとも10年位は永い目で見なければならぬ。6年間に習ったものを1ヶ月で総仕上げする位体が丈夫でなければならぬ。急に良い人が出て来る事は難しい。20年位経って初めて認められるのではないのでしょうか。次に入社試験の事だが、色々の方から推せんして頂いたものが、何故落ちたかと云われるときに、之々の理由で落したとは云い難い。之からはとにかく一般的な公正な方法として技術的な筆記の入社試験が行われると思う。そうすれば主観に左右される事なく、公平に出来ると思う。現在では各社共8月頃から試験して良い者を早く取ると云う風であつたが、入社試験で就職がきまつたからと云うので一安心して、卒業が3月であるのにも勉強しないと云う事がある様であるが改めるべきだ。此の事については聞く所によると次官通達が来ている就職試験と学業に関する一般注意を促している。之は入試と同じく期日を一定にしてやれば良いと思う。

大倉 大賛成だ。早いと学校では面喰う。

日野 そうすれば学校はもう少し落着いてやれると思う。前年の8月15日迄に面会や試験をする事は無茶でなかろうか？

中野 大きな問題が2つ出た。一般教養的な教育でよいと云う意見と、渡部さんは個性を見出してやるべきだと云われたが。

渡部 技術教育には段階がある。その専門学校教育はどの段階で止めるかを見極めて教育せねばならない。20代なら20代、30代、40代ならそれに依じて教育すべき事が定まらと思う。リーダーズダイジェストにも書いてあつたが、教育すべき段階を考えねば、その人に適した教育は難しいのではないか。

中野 その問題は後に残して皆さんにもう少し。奥村さんこれから出る貴方の後輩に対して何を望まれます

か。

喜多 私は奥村の代理の喜多ですが、学校を終えてから役に立つ迄、相当年限がかかる。大体今迄は理論的な面が多かつたが、實際的な面をもつとやつて頂いた方が良くはないかと思う。

中野 岡本さん、貴方の立場では

岡本 根本としては、職業教育か否かにある。私が学校に入つた時分は大学は原則として職業教育でなかつたが、新制度で変つて今は大学と高工とは何れも職業教育を与えるのが目的であるかどうかによつて話も変わるが我々の方から云えば、先ず施工見積面をもう少し強調した方が良い。尤も根本的な問題は現状としては、此の前中野さんの云われた事に我々も同感である。此頃の若い人は、良く云えば欲気がない。悪く云えば、云われねばやらない。積極性を欠いて居るのではないかと思われる。学校を出てからも教えてやる事が大切であるのは勿論である。入社面接の時に「施工の方をやりたい」と云われるのは請負であるかららしく、丁度支持政党の間に「自由党」であると云われるように(笑声)我々の方ではどうか分らない。途中でへこたれる人は事務関係でもある。

吉野 入つて来る人は真面目さが次けて居る。先輩に対して友達扱いをし、中には喰つてかかる人も居る。真面目でさえあれば必ずうまく行けると思うがこの点遺憾である。採用試験の時に得意なものは何かと聞けば、設計が得意だと云うから、建物の制限高さを聞けば分らないと答える状態である。

渡辺(勇) 先輩の方で意見の違つているものもあるが、先程日野さんから云われた20年経って初めて認められる業態の難しさから3年で仕上げるのは無理で、一般的な知識を与えれば良いのではないか。即ち設計に就てはドラフトマン程度、施工に就てはフォアマン程度の技術者としては何も高級な技術の研鑽を励む許りでなく平素の注意力(細心)の養成が肝要であり、その点今の人は注意散漫で1例を挙げれば図面を書いても自分でしか読めない図面を描いている。実社会では之ではいけない。学校では努めて、落ちの無い徹底したものを描上げる要素を与えて欲しい。

藤塚 私の考えていることはすでに皆さんが云われた一言だけ申述べたい。最近入社する人の中には細部の名称を知らなかつたり、見積積算の時間が1時間しかなかつたと云つているが之では困る。

渡辺(勇) 今の意見には賛成である。教育時間が短かく、6・3・3・4としても、3年か4年となり、学校側ではそんなにやつて頂けないかと思う。

私の学生時代に強調されたせいか知らないが、個性をもつと強調して欲しい。私の受けた教育では個性を尊重して平均点を取られなかつた。唱歌、図画、算数と3つ

の平均点を取つても何を意味するのか、建築では平均が必要かも知れないが、構造も製図も何もかも優秀であるに越した事はないが、何もかも良く出来る人は先ずない。平均点が良いから採用しろと云われても一寸、出てから一緒に働く云う事でチームワークと云うか、1人の人間を中心としてやつて行く時に、どうしてもチームワークが必要である。学校でも3、4人グループになつて1つの設計をやつて行くのが良いのではないか。個々の人間が責任観念を持つて与えられた分野をやつて行く。責任観のある人が必要だ。

中野 この辺で色々の問題を整理して学校側の意見を承りたいと思います。

先ず 鷲尾さんから、建築は芸術である事について、反省をしなければならないこと、渡部先生からは、学校教育ではもつとテストの方法を取入れるべきだ、日野さんのお話では、専門的に然らざれば健全な身体と思想と云う穏健な事を云われ、又同じく入社試験の時期について、喜多さんは実際業務をもつとやつて欲しいとの御希望、岡本さんは施工見積りをも入れて欲しい、勤労意欲をもつと持つて欲しいこと、吉野さんは真面目さが足りないと人格の問題に触れ、渡辺さんは、学校でもつと基礎的な事をやれと云われた。

茲に基礎的な事とは何かと云う問題が起つて来る。渡辺さんは個性の尊重等と沢山問題が出たが学校側だけの問題でなく、共通の問題として学校側の意見を。

益尾 渡部先生の御意見は結構であるが我々の手におえない事があり、日本全体の教育に関係して居る。私達の学校に入つてからテストしても手遅れである。渡部先生は日本の教育に欠けて居る所を指摘して下さい。此の前の座談会で中野先生から現在の教育態勢を話して頂いたが、高等学校の現状は3ヶ年で教育し、最少限85単位をとれば卒業出来ることになつており、之は1日5、6時間の授業の割になり、その内建築専門の必修の時間は1/3だけしかなく、他の2/3は一般教養をやるように文部省で定められ、苦しい中で建築の専門の教育を行つている実状にある事を重ねて申上げる。

渡部 鷲尾先生は建築は芸術なりと云われたが之は少しく古い時代の言葉で、今ではコルビゼーも「家は人間の住む器械である」と定義している。この「住む」ということをよく考えなければならないと思う。

鷲尾 いや、私の云つているのはその反対である。

渡部 之は重大な問題であり、今迄は「建築は芸術なり」と宣伝し過ぎた嫌がある。これからの家は機能的であり、経済的であり、愉快に生活し得るところに重点をおき、その上に出来るだけ芸術的であるということではなければならない。

中野 この問題は又後にして。

鷲尾 先程藤塚さんからお叱りを頂いたが、私の所は

施工の時間は取つてあるが、講師が見積りの演習をされなかつたものと思う。学校で基礎的な事をやれと云われるが、基礎をどの線に抑えたら良いか。

我々の所では施工の方にも重点を置いて行きかけたが、教育の方法が分らない。又之等の事は各社とも夫々システムがあるが極秘になつて居り、此の目的は挫折したが、此の座談会を基にしてどうやるべきかを聞いてその方向に持つて行く手懸りを教えて頂きたい。業界へ行く人が多いから業界の方で積極的に意見を出して指導して頂きたい。力を入れて頂いたら教育が修正されて行くのではないか、文部省、学校だけに任せて居てはいけない。本人がどう適応して居るかは疑しいが、建築から逃出さないようには教え込んで居る。

渡辺(勇) 成績の芳しからぬものが建築を希望すると云われたが、我々の時代はそうではなかつた。それだけに旧観念で今の人を眺めるのは不可ないかも知れぬ。昔は芸術家の養成にあつた。芸術家になる要素を失つて請負業界に入つた。然し真の建築家には成り損じたが建築家になる基礎的な事を勉強したお蔭で請負で20年間暮して来て居る。先程見積りが出来ぬと云われたが、見積り、積算は算術さえ出来ればやれる事であつて、学校でやる必要はないと思う。之を学校に要求するのは無理である。学校に於ては集合教育でなければ効果ない、又は出来ない点の指導をして戴いたら宜敷いのではないか。

犬束 学校側として終戦後に指導を受けて、出て直ぐ間に合う教育が必要だという事で、内容を変えて行つた。その一つの方法としてアメリカから入れたものであるが、職業分析を実施した。手間のかかる仕事であるが私も目下やりつつある之を実施する時には教育をして居るものがやるより業界の方がやるのが良いのではないか。

数学に迄基礎を掘下げるべきだと云う事には賛成だ。目的としては基礎的なものを伸して、方法としては實際的に演習をして行くのがよいと思つているが具体的な面については行悩んで居る。

中野 職業分析の話が出たが、職業の実態の中から、何を要素に持つて来るか、業界の方からこんな要素を入れて欲しいと御希望が出たら有難いと思う。之について、鷲尾先生から共通的な問題即ち基礎的な問題とは何かということに関連して御意見を承りたい。

鷲尾 基礎的な話であるが、私は数学的な事に携るチャンスが多いが、自分の出した数値には責任を持って教えて居る。之で正しいかと云う学生の質問が多いが、私は此の場合突つばねる。自分の数値に責任の持てないような人は業界に入つて行つても役に立たないと思う。之は小学校の時に遡つて追求する必要がある。高等学校、大学で考えるのではなく小学校の時から考へて行くべきだと思う。前回の塚本さんのポリウムとセンスを養えと

云う事について色々のテストをやつて行くような教育としては、所謂初等教育の方で注文を出すべきではないか。各職場で独得のやり方をして居られるが卒業生は未完成品であるから、之を10年或は20年間に仕上げて行く事をされないと、学校教育と云うマスプロの課程では出来ないのではないか。職場の方で基礎的な事を指摘して頂ければ、どの段階でやれば良いかが分る。最高級のアーキテクトを作るのは卒業後大学院で養うべきではないかと思う。

中野 高校の方に一つ。

長尾 私共の学校では、兎に角都島に入りさえすれば後は何とかする、と考えて居る人が多い。もう一つは、昔の工業学校に入つて来る人は、裕福な家庭の人が多かったが、最近是一般労働階級の子が多い。そのため家庭的に早く世の中に出られるようにすればよいと云う訳で、方針も何も無い。工業学校を出れば職が早く見付かると云う具合にやつて来る。

私の所は今年は、官庁から1人も申込みがなかった。年によつて就職方向が異なるのでどこへも向くように仕向けなければ、就職の解決は付かないのではないか、新制卒業生では頼りないとお声があるが、縁を貰うときに女学校出の間に合わないのを歓迎する如く、学校出を採用して家風に合うよう育てて頂ければ有難いと思う。

中野 問題は中心に触れて来たが一般的な事と専門的な事の意味、学校では何処へも向く基本的な事を教えられると議論と、職業的な教育をやつて欲しいといふも議論が2つに分れるが、一般的とはこんな意味で、専門的とはこんな意味で要求するのだと云う事を示して欲しい。

渡辺(勇) 間に合わない人は会社としては雇えない。会社でも官公庁にしても 酔狂で人を採用するのではない。適した性格と専門的なものを持たねばならぬと思う。一般的なものを身につけて、更に専門的なものを持たねば世の中に出せないと思う。例えば見積りはアナリシス分析である。同じ見積りを行つても、色々な途中の細い問題があるから、其れを細く分析して正確に出す習性をつくる所に教育の方法があると思う。

日野 渡部先生の反論になるかも知れないが、技術は掘り下げれば掘り下げる程深くなつて来るものであるから学校の3年間ではそれはマスター出来ない。見積りも実際にたずさわらねば出来ない事であつて例え現在の工賃や材料の値を知つて居ても2ヶ月後にはどう変更なるかわからない。実際問題としては予測出来ない。それよりも円満な常識を備えた人、自分が一生、之をやる決心をして行く事が大切である。例えばいくら技術的に教えると云つても、新しい重量測定法のミキサーを知らない先生も居るし、又鉄骨がこんなものだとか教えても、溶接や新しいドライブピンの工法等は実際に見なければわか

らない。又最近の施工法の進展は目覚ましいものであつて、このめまぐるしい変化を教えようにも先生方はついて行けない。例えば学校では本当の見積りを知らないなら知らないと言えよといふのであつて、知らないものを知つた風するという事がいけない。1日も早く勉強してマスターする努力が必要である、又業者もそれを受け入れる位の度量も欲しい。今日の学校出に専門的な完成人として望むことは事実無理でないでしょうか。

渡部 1つの基本的な事を分析して行く事が大切である。ダイジェストばかりでやつて行くのはいけない。ダイジェストして教えないで、基本的な事を分析して教えて行かなければならぬ。現場を見せ、実際構造についても基礎から見せてやる。設備、構造、施工等現場に行く事が大切で、それが技術教育であると思う。

益尾 渡部先生の御意見はよくわかるが、小中学校の義務教育で太いにそれをやつて頂かなければ高等学校で急にそんな事は出来ない。参考迄に申し上げるが大阪では平均して中学校卒業生の55%が高校に入つて来るが、それを教育する中学校の先生は手が廻らない。例えば中学校は28人の先生で1,300人の生徒を又1人の先生で70人の生徒を抱えている様な状態である。何とかこの座談会から生れ出たものを教育界全体に持つて行つて小学校・中学校の教育から手直しをせねばならぬと思います。

篠原 今日御出席の業者の方は大企業の方が多いが、小企業では5年10年と育てて行くに耐えないで明日からでも役立つ人を要求されますので此点に悩みがある。昔は3・5・6年制の職業教育を数種類の段階でやつたが、現在は3年の高校と4年の大学、中に2年の短期大学があるが、昔の状態と比べたら、どれがよいだろうか。

樹谷 施工についてよく話が出来ますが、どうも私の方では困つた問題であつて施工機械の如きものも、都市では学校の周辺に多くの現場があるから直ちに了解することが出来る。所が私の方では先ず写真の如きものにより大体の説明をなし、機会をとらえて、実物を会得せしめると言う具合で相当の苦心が必要となつてくる訳です。更に新しい建築材料見本の入手にも骨折だし見積りに際して可成りの苦勞がある、殊に時価の資料を得るにも適當なる雑誌もない。そこで我々の最も望む所は協会誌「建築と社会」に土建関係の時価表の如きものを掲載していただければ非常に好都合と思う。

渡部 昔も今も画一主義でいけない。大学でも高校でも同じだ。

篠原 教育組織、その他についても悩みがあるが、高等学校では全教課の1/3しか専門教育の課程がない。昔は芸術家も養成し得たが、今は到底出来ない。マスプロの、技術屋を作る事しか出来ない。

渡辺(勇) 基礎的なものとは何かと云う御話があつたが例えば術語の解釈に就て工程表とは期日迄に完了する

ために何日頃資料を入れ毎日幾人の労働者を使用するかと云うチャートであつて決して大工が何人来るかわからぬから工程表がかけないという解釈は成立しない。根本的な理論が分っていないと実際問題として永久に反対の解釈をすることになる。又これを広義に解釈すれば人格の養成、周到、緻密な性格の養成であつて一般の技術者の養成と何等変らないものと思う。先程、鷲尾先生から算術の問題は小学校の問題だといわれたが、その出来ない人に大学卒業のレッテルを与える事はどうか？（声笑）

鷲尾 京大、東大であろうとその算術が完全に卒業出来るのは×割位ではないか？自分の計算値にほんとうに責任を持てる人はほんとうに少い。私が大連の工専でやつたのはそれを叩き直す事であつた。自分の計算したものに責任を持たすのは、なかなか出来ない事だ。

渡辺(勇) 算術と申ししたのは初等数学の然も加減乗除の分っていない（理論を指すのではありません）……此の原因が高等数学又は応用数学等に於てそのプロセスに於てはルーズな点があつても解かれた答えには大した差異がない。その通念が実社会で利用された場合万事スライドルール式のラフな行動となる。実社会に於て求められているものは算盤式な答えであるにも拘らず正確さを欠く。名古屋大学ではソロバンを正課でないか或る課目にはソロバンを使わねばならない様な問題を出して居る。これは世の中に出てから間に合う。建築でも實際的にそれを応用する面が多い。先生方は結果を見て過程を見落して居られないか？基礎的な面に於て方向違いのない様教えて頂けば仕事は入つてからでも覚える。イージーな考え方と態度は実社会に出てから指摘を受けても中々直らない。

岡本 旧制と新制の人とを比較すると、相当相異があるように思われる。新制大と旧高工とでは、終戦前後は別としては昔の高専の人の方が間に合うように思われる。之は根本的な事が頭に入っているからで、今の人は其の滲み込み方が少いように思う。先程申した積算云々は大体積算の方を馬鹿にする傾向があるのではないかと思えるので申したので工事の実施には必須の積算であるから積算の必要性、重要性を強調して頂きたい。

中野 永くなりましたが、予定が5時でありますので、此の辺で総括的に竹腰先生から御感想を。

竹腰 今日は色々な面白いお話を聞かして頂いた。承つて居ると色々な議論があり、意見の食い違いもあるが、先程云われたように職業分析が大切だと思ふ。今迄の学校の教程は古い時代のものを少し変えて使つて居られると思うが、実状がだんだん変つて来て居る。今日述べられた事は総論であつて、之を基本にしてもう一度やり変えて、もう少し変化を与えるべきだと思う。其処に始めて新しい時代の教程が生れる。今日の事を基礎にし

て職業分析をする。これは大事業であるが、建築教育に非常に貢献すると思う。部分的な感想としては、芸術なりや否やの問題は、芸術であり、もう一つ職業的な教育については一応人間教育に相当重きを置いて貰わねばならぬ。責任観念を養う事を教育の基本としてやつて頂きたい。例えば神戸に出張するとする。会社は4時に退けるが、神戸は3時で済んだ。事務所に帰るには4時15分前になるが、そんな時に、事務所に帰るべきかどうか、僅かな気持が人間の一生を支配する。もう一つ外の方面から問題が起つて来る。例えば、或る事を聞かれた時にアイデアの全然無い人が居る。所がこの人は、徒に他人のアイデアばかり批判する。又色々アイデアの多い人も居る。私が点数を附けるならば、この前のアイデアのない人は丙であり、アイデアの多い人は乙であり、甲が附けられるのは、一番良いアイデアを整理して出す人である。其の外に熱意の事もあろう。責任感がありアイデアの多い事で、人間の価値が定まるのではないが、この点を職業教育をやる人は考えるべきだ。

もう一つ見習いの事であるが、経済的に其れを会社が出来るか、出来ないかの問題であろうが、色の付いて居ない出たての処女を家風に合うように育てるようにして欲しい。概して外を渡り歩いたような人に良い人は少い。

もう一つ学校教育の範囲であるが、先程、積算工程表も出来ねば困ると云われたが、学校ではやれない事である。私の見た建築士の試験問題で、そんな実務の方が出たのは仕様書だけであつた。積算の演習をやらしても千差万別で出来ない。概括的な観念を与える事は必要かも知れぬが、千差万別であるので難しいと思う。教育では出来ないが之も分析の一端であらうと思う。委員会のこの仕事は時間と金を掛けてやつて欲しい。此際、此れ位知識の広い方がお集りになつているのだから案外簡単に結論が出るのではなからうか。

中野 永い間お忙しい所を有難う御座いました。又学校側には2度も御出席を頂いて厚く感謝します。又私の足らない所を補つて頂いて、今日は本当に収穫が多かつたような気がする。又竹腰会長からは、高い所から御意見を頂きました。勿論結論は出て居ないが、何か進歩の方向に向つて努力して行こうとする出発点、之を作り上げて行くための職業分析が皆様のお助けによつて目当てがついたようです。この方向に向つて努力を続けようと思います。尚今後とも、後輩を教育して行く、上での名案を出して頂きたい。以上の外に委員長から示された色々の問題、例えば中学校だけで卒業して行く人或は大学院に行く人の職業はどうするかとの問題も残つて居ります。之は次に解決する事として、仕事を進めて行きたいと思ひます。司会の方で随分不躰御無礼な事もあつた事を

(27頁へつづく)

飛 驒

白 川 紀 行

文 松 本 儀 八
福田 万 亀 雄
天 岸 正 男
竹 内 孝
撮影 天 岸 正 男
酒 井 徹 郎

前 こ と ば

年来の宿望であつた飛驒白川大家族民家の見学は建築協会創立35周年記念事業各種催しの一環として採り上げられて、去年7月12日現地調査の機会を得たが、何分時間的に制約をうけて落ちついた調査やスケッチ等が出来ず、天候の都合もあつて撮影さえ意の如くならなかつた事には非常に心を残された。それでも標掲の4氏から紀行の原稿が寄せられ、又数氏からの写真をも送られた。そこで本文は標掲4氏の原稿を取捨撰択して一文となし、題して「飛驒白川紀行」とした。そして写真も数氏のうちから標掲2氏の分を拝借して文を飾ることが出来たのである。投稿の各氏に厚く御礼申上げたい。

そして、折角の玉稿ではあつたが、編集の都合もあつてそれを取捨して書き改めた非礼のお許しを求めると共に、文責はこれをまとめた私一人にあることを申し添えたい。(竹内 孝)

白 川 郷

越美南線北濃駅から貸切バスで長良川にそつてさかのぼる事一時間半、そこは標高1,000米内外、眼近かく白山々脈の雄峯大日ケ岳を西に望み、東は鷲ヶ岳の連峯に連なる蛭ヶ野(ひるがの)の美しい高原、有名な大日開拓団の開拓地となつている一帯である。今まで上りつめた道路はここから下り坂、庄川の最上流をそれにそつて下る。丁度蛭ヶ野は伊勢湾へ流れ出る長良川と、富山県を横断して日本海へ注ぐ庄川との分水嶺に当る。

前日米近畿東海方面には記録的な大豪雨があり、さらにこの高原地帯は平均雨量2,780ミリという多雨の土地、その降り方たるやまことに男性的、只阿然とするのみである。バスの窓は洗うが如くに流れる水の幕をすかして、はげしい雨脚に頭をたたかれてうなづくばかりの樹木を窓すれすれに左に見られるのみ。右は庄川であるが、厚い雨しぶきのため対岸は一物も見られず、空と山



とのけじめさへわかりかねる白一色、わだちの音さえなければ渺茫とした雲海の上を行く飛行機の如く、車は山頂に近い高原の山肌を縫うて走る。

平瀬歩危(ぼけ)附近では、滝の如くに断崖から道路へ落ちる水の中をバスはスピードを増して突き切つたが、小石をも一緒に流して居たので、車の天井は破れるようなすさまじい音に一同顔色を変えて慄然としたスリルもあつた。

バス3時間程で御母衣(みぼろ)に至る。大家族民家の代表的なものとして有名な白川村の連山家のある処でここらあたりからバス終点の鳩谷を越えて椿原附近までを白川郷とされている。

飛驒白川郷の風物誌の序文に

「飛驒白川郷の名は早くも平安朝の末、安元2年10月藤原兼美の著『玉葉』に見えている。白川谷に早くから部落が発達し、京都の公卿の間に彼是と話題に上つていた地である」と誌されてあるが、白川郷即ち現今の庄川白川両村がこの世の別天地であつた事は既に過去の夢で云々」と記されている。

白川郷は岐阜県の西北部に位し、白山々脈の裾を南北へ庄川の流にそつた風物の美しい山郷であるが、越美南線終点北濃駅から当村役場の所在地鳩谷までは64キロ、近時僅かにバスが通つてはいるものの、積雪の多くなる11月末から4月末頃までの冬期は全く交通絶で、急用でもあれば途中で宿泊して雪上を徒歩で出なければ町へ出られない偏境である。(庄川を下つて富山県へ出るコースは険峻で容易でない。目下発電工事等に関連して道路が開かれつつあるが、本誌の出る頃には或は開通の運びとなるかも知れない。)

白川郷は東西約16キロ、南北34キロ余、面積は実に357方軒という広大さではあるが、地勢は飛加越の国境上に蟠居する白山々脈をけづる庄川の一豁谷の山地にす

とす、峻険な断崖の中腹や激流の沿岸に点状する部落の御母衣、木谷、萩町、鳩谷等から成り、発電事業の開発や、戦時戦後を通じての木材景気によって著しく発展した現在に於ても、僅かに戸数は 612、人口は約 3,200 という稀薄さである。

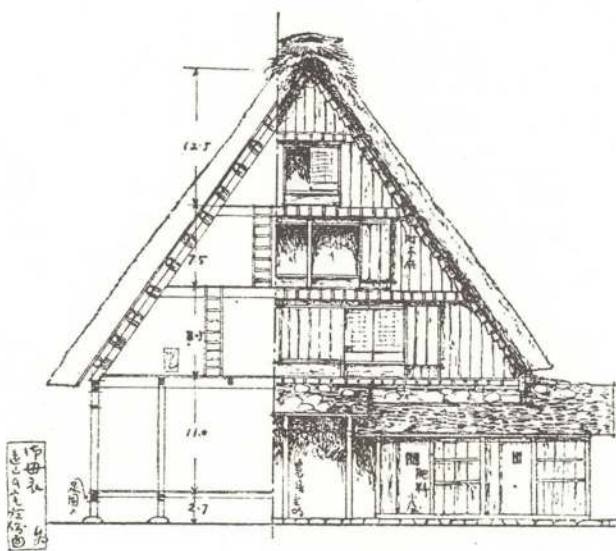
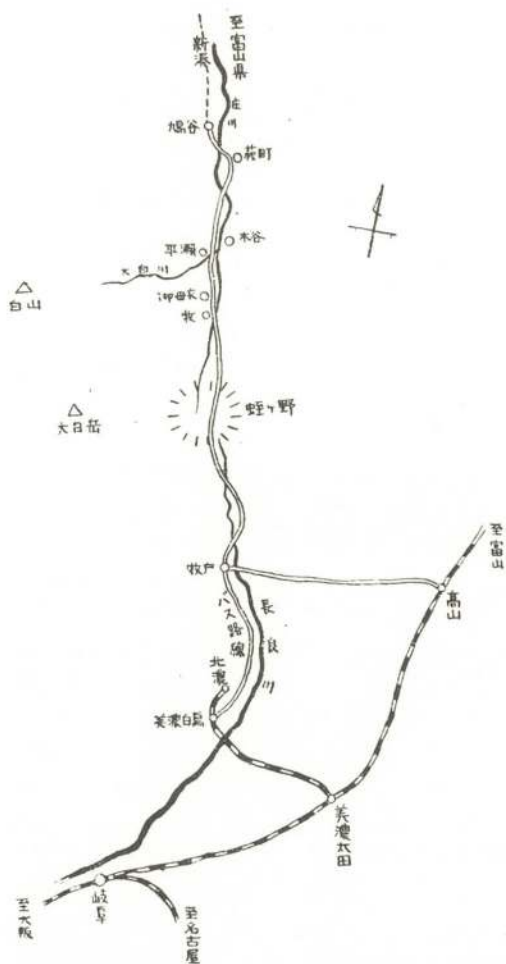
白川 習俗

御母衣に車をとめて遠山家を調査したが、これを記す前に白川習俗をのべなければならぬ。

民習あつて民家がきまる——これは一般にはあてはまる事ではあるが、この白川村の様に、極端な僻地で、日用品の何でもないようなものでも思いのままには手に入りやすく自給自足を原則的に考えねばならない不自由な処では、民家が民習を作つた——とまではゆかなくとも、少くとも民習を規制して来たと云いうるのである。その民習はどうなつてゐるか？

この地特有の大家族制を先づ数字でながめよう。

白川村方面略図



(白川村代表部落戸数及人口消長表参照)

この表で昭和年代、木谷、平瀬等が戸数の増加を来しているのは、発電所や鉱山の開発、国有林の製材所設置等があつて、急激にそういう方面に労力の移入があつた事、殊に昭和24年の調査で増加の顯著なのは戦争による疎開定着があつたからだと推定出来る。即ち明治年代までは戸数は左程増もなければ減もなく、至つて平和な夢を見つづけて来たもので、大正に至つて発電などによる近代工業の響きによつて、遅れさせながらも現代社会へ踏み込む胎動を始めた姿がよくわかる。

後表で1戸平均の家族数を見ても、明治末期を最後として、大家族制がくづれてゆく形をはつきりと示しているが、こういう村の中でも、殊に家族数が多かつたといわれている4家族の経過をながめて見れば、尙そのデテールがはつきりする。

交通の発達につれて一局地に限られた習俗も、逐次その特色を失つてゆく事は何処も同じ傾向ではあるが、交通未開拓の頃のこの地の大家族制はどうだつたかを探つて見たい。

極めて僻地の、而もこの地形、この地味では、往昔産業のはつきりしたものが成り立たなかつた事ははつきりしている。

耕地は極めて乏しく地味はやせて火田の耕法をする農業では多勢の者が命を養ふことは出来ず、交通の未開拓では山の美林も雑草にすぎない。(金肥の手に入りにくい僻地、或はやせ地では、数年間畑を放置して雑草灌木の生い茂り又枯れ朽ちるにまかせて多少土地の肥えるを待つ。そして耕作の年には雑草に火を放つて焼き、その灰分によつて土地の酸性を中和させて播種農作する。数年耕作して又土地がやせて来れば、数年放置して前の方法をくり返す。これを火田という。)

それに淡水河の而も最上流では漁業で生計の支えられ

白川村代表部落戸数及人口消長表											
年次	代表部落		御母衣		長瀬		木谷		中谷		以上5部落 合計
	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	
嘉永6年	2	160	4	195	7	175	14	210	11	167	78.1
明治9年	4	160	8	223	13	160	7	130	7	185	19.0
32年	42	210	4	230	16	179	7	182	162	231	22.2
42年	2	155	5	158	14	176	7	196	10	142	16.5
大正7年	5	100	5	200	14	159	7	129	17	7.6	14.5
昭和5年	6	47	5	124	18	88	7	125	53	5.2	8.8
24年	6	44	6	73	12	91	135	71	122	5.0	7.1

代表4家々族数推移表					
年次	代表家系	遠山家	大塚家	山下家	中谷家
明治 9 年		33	22	25	26
" 21 年		33	26	30	34
" 38 年		34	43		
" 43 年		40	44		42
大正 7 年		33		28	35
昭和 5 年		25	18	27	35
現 在		14	13	11	13

る筈もなく、結局猫額の地に稗、粟などを植えて細々ながらも食を支え、山に自生の食用草根、果実、新芽等の採取や狩猟によつて副食物を自給し、山桑をつんで養蚕をなし、数日かかつてまゆを町へ持つて出て日用品や綿衣と物々交換するのが生計のすべてであつたにちがいない。

この貧困な経済事情が分家による財産分与を不可能とし、家人の増えることに脅威を感じしめる。この事から子弟の結婚をみとめない——と云えば非情にひびくが、少くとも周囲の者が積極的に取りもつてやらなかつた事はうなづける。

子弟自身としても、生計の見通しがつけられるような耕地が得られず、新居を作る資力の貯えなどはこの地にあつては思いもよらぬこと、勢い生家に留つてそのまま労役に服して一生を終りがちであろう。

結局この形が幾代もうけつがれて、家長及びその嗣子のみが結婚、他は皆独身のまま生家に留つて労役に服するが、これに対して家長は一生それらを食扶養する義務を負う——という一つの形がまゝつて現在になつて来て居ることは容易にうなづける。

外面的には、こうして一つの規律、不文律が出来ても、性的の問題は解決されない。そして又人口増加が大きな生活の脅威ではあつたにしても、不自然な性的の抑制がいつまでも万人がつづけられるものではない。窮余流通の方便として、ここでは1男1女の間でのみ内密的

写真 ① 遠山家正面

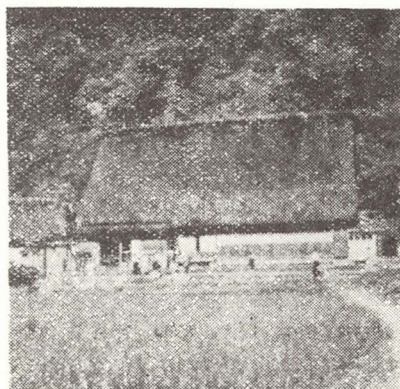


写真 ② 遠山家左側



写真 ③



に行われる交渉は同情的に互に干渉しないという習慣となつて解決されたのである。但しどこまでもそれは特定の1男1女の間であつて、不倫は又格別に重い制裁が加えられたので、倫道の乱れは絶えてなかつたと伝えられている。

この特定の1男1女の交渉の間に子を設けることがあつた時は、それほどどこまでも私生児として取扱い、母方の大家族の一員として生育される。即ち1男1女はどこまでも同居しない内縁夫婦という関係でその一生を終る。

こういう不自由な土地では換金の機会も乏しく、又日用品資の入手も事が欠くので、家長は多くの家人に対して小使銭や身廻品を与える余裕はない。そこで一番容易な方法として月に数日の労働休日を与える。この休日に

彼等は山林を獵狩し、或は他の労役に服し、又は未開地を農耕する。この事に依て得た収入をしんがいと称してその個人の所得となし、これによつて身廻品を入手したり、或は同居しない妻や子への用足しとすることになつている。

これらは皆家長の権限を増大せしめる結果となる。家長夫婦の調理は多くの家人のそれとは別になされ、主食も労役に服する家族は、びえ、あわ、であるに対して、家長は常に米食である。家族は牛馬の如くに働き、疲れては寢室の翼むしろの上に同性一室に雑居寢するに引換え、家長は畳敷きの特別の室に起居し、服装も格式張つた「猿袴」を着して家族の監督をし、経理を独占し、仏典をつかさどる。更に家人のうち、男の最右翼をえらんで「鯨頭」となし、自分に代つて耕作労役の計画、指導、配分等を直接指図せしめ、女の最右翼をえらんで「鍋頭」とし、炊事の切廻しをさせると共に、労役に適しない女老人を使つて幼児の世話をさせる事としている。

この家長権限の絶対性は建物の平面構成、室内仕上までではつきりとあらわれている。

こういう大家族制の形体はこの地特有のものでなく、わが国古昔の一般の風習であつて、奈良朝時代の戸籍を見てもほぼこれと同じようなもので敢て奇とするには足りないが、この地一帯は世の移り変りから甚だ遠く隔離されていたがために、古風そのままの習俗を今日に伝えているので、現代人のわれわれからは異風に感ぜられるにすぎない。

又この地は平家の亡命説もあるが、民謡の歌詞、言語、建築各部の名称などから相当武家的な臭いの強さを感じはするが、これをそのまま平家落武者がしのび込ん

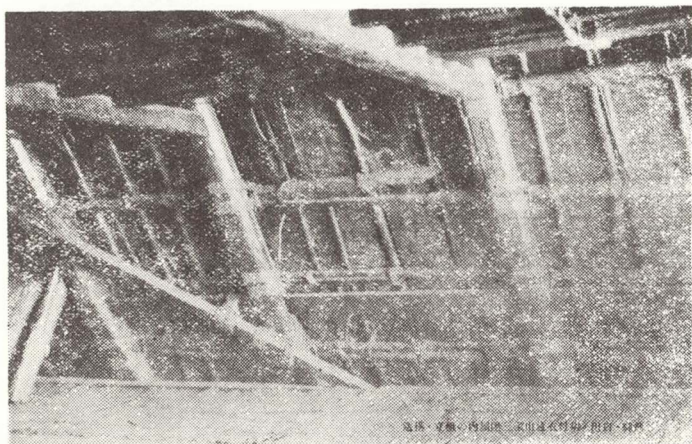


写真 ④ 遠山家の屋根裏

木々の配置やその裏結のわら纏に素人的の美しさがある。床の竹藪子も見えている。

だ地であり、ここに住う人達はその末裔だとするのは飛躍した説であろう。日本では、僻地となればなる程平家がよく飛び出してくるものである。

以上のような慣習、生計の実態を一応頭に入れてこの地の建物を見たい。

御母衣の遠山家

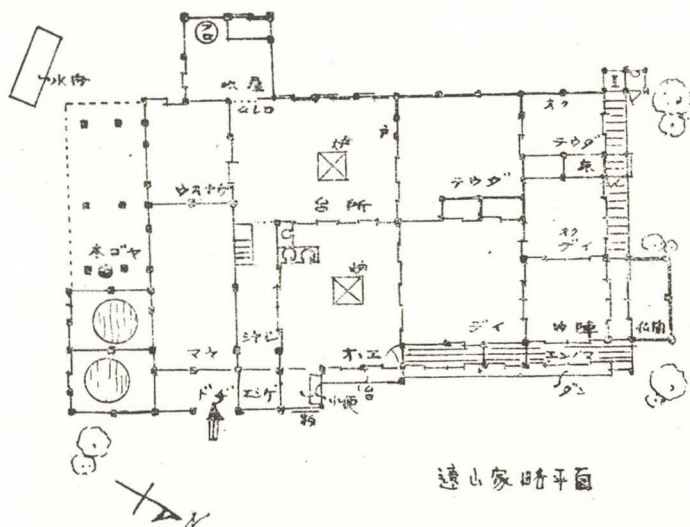
この地の民家で、伝統も古く、最も規模の大きいものの、一つであり、保存も行き届き、位置も便利なのはこの御母衣（みぼろ）の遠山家である。

平入りの平家建てではあるが、切妻の合掌造り60度に近い急勾配の茅葺屋根で掩われているので、屋根裏の容積は非常に大きく、これを3層に区切っているの、妻側では4階建ての建物である。而し屋根裏階は3層共同仕切はなくて各層1室となり、両妻からのみ採光している。この屋根裏階は、遠山家では3層だが、他の小さい規模のものでも2層になつているが、この部分は皆養蚕室となつて、多勢の家族が居住するのは1階に限られている。

遠山家の1階平面をながめて見ると、一般農家の典型的な形式の十仕切型がやや富みに発達したサ仕切型の域を脱していない。

てい、は男家人の寢所で18帖大、てうだ（帖台の転化か）は女家人の寢所で16帖大、只さえ採光不十分であるのに、囲炉裡の煙ですすけて黒いこの2室で多い時で40余人という一家が男女に別れて、各自の歴史を作りながら、その人生を生きながらえた事は、個人尊重の現代思潮から見れば、全く不思議な生活形態とも云える。

だいどこ、は台所で食事室である。中央に4尺5寸角もあるような大きな



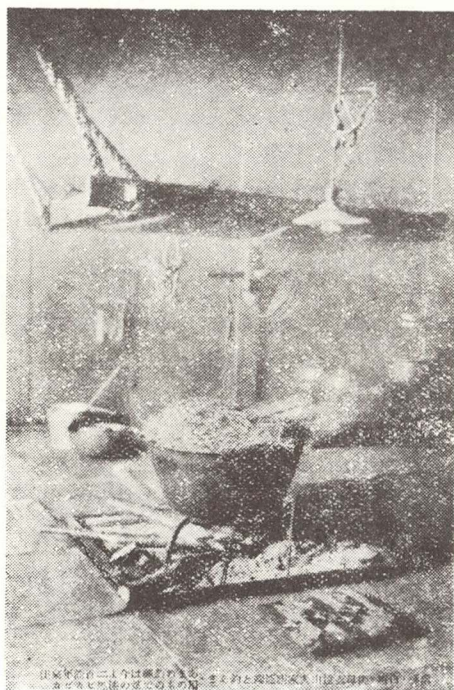


写真 ⑥遠山家おゝえの炉端

上部に釣り下げられているのはつりあま、隅の方に小さいかまどが見える。

囲炉裡が作られ、これに大きな鍋釜をかけて煮炊きしつつ、数十人の家人がにぎやかに談笑しつつ之を取りかこんで食事をしているほほえましい様がしのばれる。

おおえ、は居間である。家族団欒の室でもある。

ここにも中央に大きく炉を切つて、その上には天蓋のように、つりあま、がかけられている。四隅を太いわら縄で天井からつり下げた方1間程もある大きな簀の子で、炉の火が勢いよく立ち上るのを防いだり、雨や雪にぬれた物の干し場ともなっている。このつりあまの下に、おかぎ（お澁）がつるされて薬罐等をさげらる様にしてある。部屋の隅にはやや小型の2穴かまどが築かれて、常に湯茶のくみうるようになっている。

これら家族達の諸室はいずれも手製のわらむしろを板の間に敷いているにすぎない。

しかしこれから奥の内陣、おくでい（奥殿か）といっている客室、おくのてうだ（奥の帳台か）とよばれる家長室のこの3室は長押つきの立派な室で勿論畳敷である。

内陣は仏典の間で、之れに向つている間口1間半に及ぶ豪華な仏壇は民家としては珍らしい。而もこんな僻地農家基本型十仕切

富有？型サ仕切

納戸	台所	土
座敷	居間	間

納戸	寝所	台所	土
客間	座敷	居間	間

でこれだけの仏壇を営まうとするには余程の資力がなければ出来ることでない。宗派は浄土真宗いわゆる門徒である。全村同一宗派ときく。元来この宗派は家作に要する位の費用を仏壇にかける傾向がある。

内陣に置かれた塀風程の珠数かけには、家人めいめいの使用するものの他に、既に死んだり他出したりした者の使用した珠数もかけられて、その数は100を超えているだろう。様々な形、種々な色、古色豊かなものなどそのいづれもが使用した人の黙々として因習に従順だったが而し生きることには頑強な信心深い山の人々の物語を秘めているようである。これらの中にあつて、赤いさんごの細々しい一聯は可憐な乙女のはかない命を見守つたものか、痛く私の胸を打つた。

下廻りには水屋、うすなが（納屋）まや（厩）があつて、まやには牛馬各1頭つながれていたが、広さは3頭位づつ入れられそうである。その前が、どぢ（土地即ち土間）で、家人達の出入りする玄関土間であり、まやの牛馬が通るのもここである。

どぢから上る処が、えんげ（椽側か）で勿論板間、取次に該当する処である。この突き当りが建具もない小便所で便器は陶製のようなもののある筈なく、檜板で巾4尺5寸、奥行2尺程の舟に青い杉の小枝を入れてはね返しを防いだ至つて山の気分ゆたかなものである。この直下は大きな便槽となつていて、長い冬の蜷居生活にたえるようになって居り、場所も戸外へ出られない雪ごりの間の便利さから手近かなここに置かれている。

厩と居間との間を、しやし（庇の転化か、ここでは廊下のこと）を通つて、だいどこ（台所）へ出られるが、この廊下を越えて居間からその厩が見られ、又廊下から牛や馬の頭をなでてやれる程厩が彼等居常の部分と密接につながっているのは、牛馬も彼等の家族の一員だからで、あろう。

台所は煮焚場兼食事室だが、水屋は洗物やら風呂など水仕事をする処である。かけひの水を引き入れ、畳1帖程の大きな舟に滔々と水を流して使っている。汚れもなく、尽くこともない冷い真清水の豊富さには、平地や都会に住む者の目には全くうらやましい限りである。風呂はこの水屋の隅にいと簡単に据えられている。

その他木小屋、薪置物、大便所（これも直下が便槽で長い冬を越すために大きく作られている）などを包括して大体間口15間半、奥行6間半の矩形平面にまとめて建坪は100坪に余る。

この6間半の張間を60度に近い勾配の茅葺屋根で合掌造りに掩うのでその景観たるや素晴らしく雄大である。

軒高は12尺であるが、棟高は45尺余ともなつて、遠目から眺めた時はあたかも堀立式の天地根元の宮造りがしのばれる程、軒下と屋根の高さのプロポーションは極端である。（写真①参照）

玉石というには余りにも似つかわしくない程の大きな

自然石とでもいう可き石を礎石として、その上に乗せかけた柱の上端に軒桁を架し、之に扱首(さす)即ち合掌をおき、繋梁と筋違で之を補強し、棟強し、棟には、おさえびそ(棟桁)を架け渡して母屋木を並べ、くだり(榑木)かやした(小舞)などを配している。これは勿論全部丸太である。屋根下地は簀子をおいて2~3尺厚の茅葺としている。

合掌を始めとし柱廻りも非常に木柄が大きく(柱は8寸角以上)そして不揃である事は、建築当時このあたりには大きな用材が有り余っていたことを物語つて居よう。

屋根裏各材の緊結は写真④でも見られるように、釘、鋸、鉄線など一切用いられず、楔となわ締のみである。

この僻地では鉄製品の入手は事実不可能であつたろうし、この高さ40余尺にもなろうとしている高い建物の風当りや地震に対する耐振動的構造からも縄締めは、それが腐朽しない際には理想的であつた事は偶然の一致というもののか?

これはあたかも京都祇園祭の鉦の構造を連想せしめる。天保年間の作だと云われるかの豪華な函谷鉦を始め、月形鉦、長刀鉦等極めて不安定相なあれだけ高い鉦を、多勢の若人で都大路を引張り廻すので、その激しい振動にたへるために継手仕口の緊結はすべてわら縄まきで、縄の弾力性がよくそうした衝激の緩衝帯となるのである。

小屋裏の凡ての緊結のわら縄も、葎の簀の子も木部も数百年(創建から300年位経過しているともいい、又200年位ともいわれている)の囲炉裡の煙に漆黒となつている。土地柄は極めて湿気が多いので、この煤と湿気のために建具や床板までさながら漆塗りかともがうばかりに油分がにじみ込んで艶かとなり、之れが防腐の役目を十分果して、今日に於ても何等のゆるみを見せず、又最近修理したと見らるるような個所もない。わら縄や葎簀がかくまで永くたへるとは、全く私達の想像を絶するものである。

外壁は全部板張りで、土壁の使われていないのは、冬の積雪が10数尺にも及ぶからであろう。

屋根裏階——つしとよばれているが——何れも台所及び居間の囲炉裡の直上部あたりを広く竹の簀の子で板の代りに張つている。これは煙の温気をそのまま上昇せしめて屋根裏階をあたため、養蚕のための採暖に利用しているからである。勿論囲炉裡には煙突は作られていないので煙はすつかり屋根裏を占領してしまうのだが、蚕には一向煙は害にならぬらしい。

大きな妻壁は各階明り障子と雨戸とがはめられてい

る。明り障子は勿論紙張りであり。この妻壁は前へ伏せ加減に作られているのでいささか奇妙に見えるが、大工技術に依存しない素人工法で作られるということを前提として考えれば、積雪にそなえるためにも、或は吹降りの時の雨仕舞をよくするためにもいい着想ではある。

平入口になつている脇の外壁——丁度小便所に当る部分の壁には巾7寸、長4尺程の、はんぎ、がかけられている。食事の用意が整つた時、鍋頭は之を叩いて家人に知らせるのだが、これをきいて附近の山や田や、或は川で働いて居た家人が、仕事の話、天気の話などを声高らかに談笑しながら3人5人と集つてくる有様は全く平和などかな情景だつたろう。



写真 ⑥遠山家の御老人を一寸失礼

今しがた、まぐさを刈りに山へ出ようとする古翁にカメラを向けたらにつこり微笑。平和そのものゝお顔が私のまぶたに残つている。

過去数百年、雨雪にふれ、風地震にもたえて来たこの建物は、全く古色そう然としている。そして世の移り変わり、人の情のはかなさ、そういうものを永い間見つめて来てよく知つて居りながら、一言も云わずに山の裾にだまつてうづくまつている姿のたくましい事には心引かれる。この建物の附近で、古翁が山へ、まぐさを刈りに出かける処を追いかけてカメラを向けたが、古翁一言も語らずにつこりと笑つて立ち止まれた。平和なそして信仰に生きた強いこの姿をながめて、この建物もこの古翁あつて一段と価値を高めていると思われた。

又この木小屋の前でとらえた古翁のスナップ、腰の曲りは、この建物の様に、永い年月天災と戦い、苦難にたへて来た歴史を物語つているようであるが、それで居て何の暗い影もなく、不満の姿もない。建物が稚拙なところがありながらも、古い歴史の光で全く美しく詩化されていると同じである。

萩町の和田家

白川行の第1日は遠山家の調査で終り、雨中を鳩谷の旅舎へ急ぐ。

翌日はようやくして天気も晴となつた。数日目に仰ぐ青空である。明けやすい夏の朝とは云いながら、熱心



床の清掃維持方法に就ての
(9月20日建築会館に於ける講演要旨)
プリント御希望者はお申込下さい

家屋の艶出

清掃作業も
御月受します

ケントク
Kentoku

大阪・北区桜橋(産経ビル前) KKケントク
東京・神田小川町1(三勢ビル) 東京ケントク
名古屋・藤前 泥江町2ノ1 KKケントク

な一行はすでに5時前から起き出でて附近の民家の集落を視察していた。今日は帰阪の日ではあるが、出来る限り早く宿を出て、時間の許す限り異色のある建物をさぐり、往路雨にさまたげられた風光の觀賞をしようという予定である。

朝食もそこそこに6時宿を出た。熊谷を少し出たところが萩町で和田家のある処、一行は車からおりてこの家を視察した。

昨日来この方面の民家で著しく私達を珍らしがらせたのは、どの家もどの家も屋敷に限界がない事と、庭木のない事である。柵もなければ生垣もない。家の建っている土地は境界らしいものもなくそのまま山へ畑へと伸びて居る。建具の戸締装置も不完全で甚しくはついても居ない。この民家の構え方から、盗難のない土地柄であること（こんな僻地で、しかも町の方へ出る道は1本きりで歩けば駅まで2日は要するような処では逃げ方がないからだろう。）や、生活に秘密のない事、訪れ来る外客の殆どなくて見栄を飾る必要もない事を示すのであつて、それだけでも都会人には夢想も出来ない楽天地だろう。

夏の夜夕涼みする都度思うのは、この世に蚊や蠅と盗賊とが居なかつたらどんなに極楽だろう——という事であるが、ここ白川郷はまさにそうである。盗難もなく、見栄も要らず、それに蚊も蠅も居ない。

庭木庭石のないことは、屋敷につづく山々には、齡數百年を数える老樹が寧々としげつて居るので、彼等の庭はその自然の山であり自然の木であり、そして広い青空であつて、猿類の地に建物近く小さい木を植えて見たとておかしくて——とでもいう処だろう。そうした環境の中にあつて和田家のみは一つの区劃らしいものを設け、客座敷の前は泉水を作り、庭石をおいて植込みをして生垣で外部と遮断して、地続きの青田が見えないようになっている。そして他には殆ど見ない土蔵が、外壁の上部だけ漆喰の白さをのぞかせて、本屋の大きな茅葺屋根の切妻と対比して美しい姿を山裾にひろげている。入口脇の老樹は思い切りを伸ばし、せいを高くして母屋の屋根を抱こうとしている。生垣といい、老樹といい、山家らしいのびるままにして、器用な庭師的に刈り込みされていないので、却つて大自然によくとけ込んで素晴らしい美しさをただよわせている。（図絵写真参照）

間口12間、奥行7間の建坪92坪、屋根裏階は2層で遠山家よりは規模が小さい。建築年代も160年位前と云われているが、工法の細部、平面の構成などから見ても、遠山家よりは住宅として進化した形であるだけに可成り年代にへだたりがあることに判断出来る。それだけに住宅としてなじみ易く出来て居り、保存手入れも行き届いている。

当地の民家研究には、遠山家とこの和田家とを比較研

写真 ⑦ 左は水屋 右は木小屋

いろいろな
庭具がおか
れている。
水屋の中か
ら木小屋の
前へかけて
水が流れ出
ている。古
垣の腰の曲
りもなつか
しい。



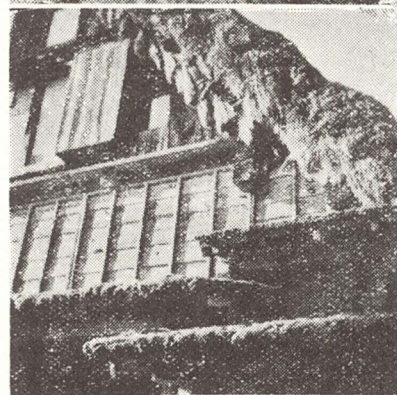
写真 ⑧ 和田家の 裏側

排水溝のよ
うな小川で
はあるが、
山からのき
れいに澄ん
だ水がつく
ることなく
ながれてい
る。これが
又敷地の区
劃でもある



写真 ⑨ 和田家の 裏側・

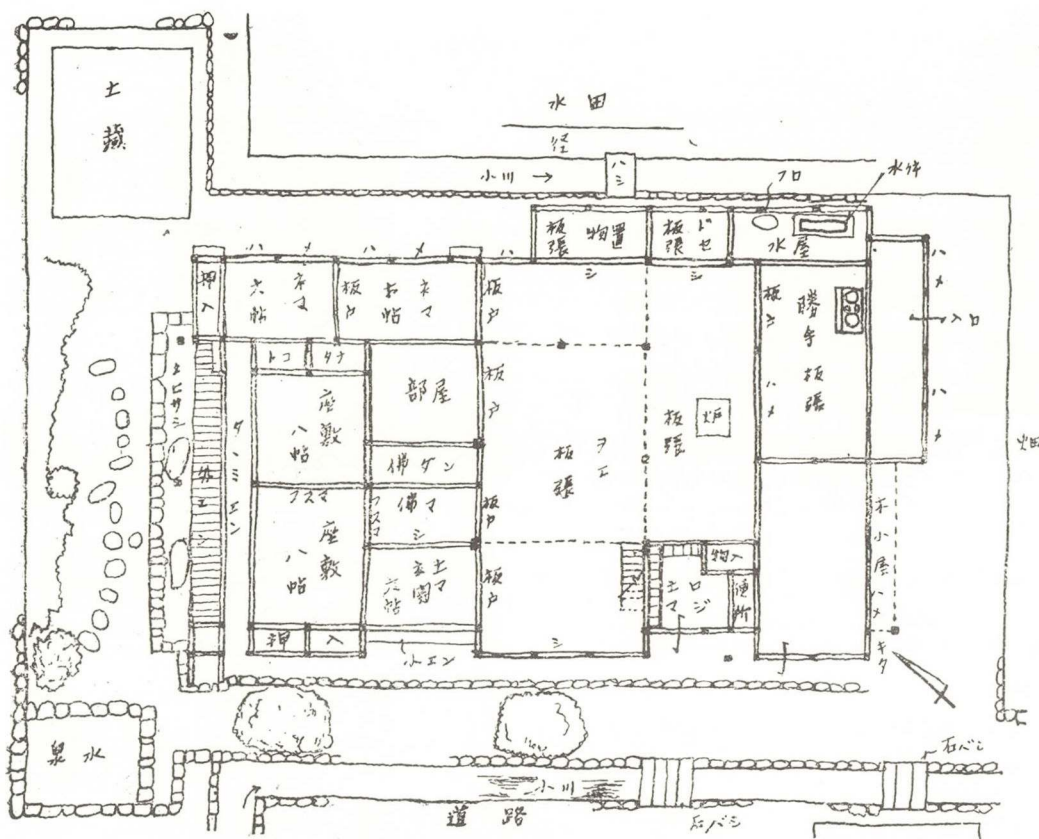
屋根裏階つ
しは二層で
ある雨上り
の山の緑を
背景にして
つしの閉り
障子の紙の
白さが一き
わさえてい
る。



究してはじめて「移りゆく住宅の姿」がはつきりするよう
に思われる。この意味でこの両建物と同じ程度の重要
さがある。

遠山家の主体はむしろ屋根裏階の「働く床」であつて
構造可能の限り最大限この面積を広くとることとし、1
階は労力蓄積のための飯場——不穏な言葉のひびきは
許されたい——と私は見たい。和田家は殆ど屋根勾配も
45度にまでゆるくなつて、従つて屋根裏階は2層で、こ
こで養蚕されていることは同様であるが、1階住部分に
いちじるしく繊細な神経が通わせてある。

即ち家人のための内玄関のろじ、と客のための玄関と
が別々に設けられて後者は相当立派で大きくなっている
こと。内玄関にある便所は仕切られていること、家の中
から既がよく見えるようになって居ながら牛馬の出入り



白川村荻町和田家の平面図

は家人の口とは別になつて居ること、火の端の一部が獨立で区切られて一部は取次に使われて、取次の間としての先驅の形をあらわし初めて居ること、客の本座敷に次の間のついで居ること、そこの縁側がたたみ縁となり、その外に土庇を作つてぬれ縁を設けて居ること、その他下廻り諸室の組合せにまで非常にいいまとまりを見せて居る。(写真の⑦遠山家のものと⑧の和田家とを比較されたい。)

敷地は何処も同じ最少限のものである。即ち90余坪の母屋と土蔵とを納める限度のものであつて、その敷地の右妻側方向はそのまま畑へのびて居る。そして表側と裏

側とは溝の様な小川が流れて限界を劃している。澄み切つた山清水——清冽という言葉がぴつたりと当てはまるような水がゆたかに流れている。裏側の小川の水を水屋の中へ引いて水舟に入れている。

左妻側には表に泉水、裏に土蔵、その間が前裁で敷地境界は生垣となつて居りそれから外はやや広い田圃で鳩谷の方へ開けている。田圃から敷地が1米ばかり高いのでその分の土留めを玉石積みとしてその上を生垣とされている。

仕口工法の細部を見ても、又木鼻に彫刻の施されているのからも専門職の技術によつて完成された事がよくわ



近代建築の粹

世界の市場に雄飛する

床材は リノリウムと リノタイル

東洋リノリウム株式会社
取締役社長 斎 信 敬 二

本社及工場 兵庫県伊丹市伊丹五五八番地 電話 伊丹 1・51・69
東京支店 東京都中央区銀座四丁目(三和ビル) 電話 京橋1701・2564
大阪事務所 大阪市東区瓦町二丁目(三和ビル) 電話 北浜375・376

TOYO'S LINOLEUM & LINOTILE



写真⑩ 鳩谷の集落

同じ方向に妻を向けて行儀のよいたゞずまい。肥料小屋のような小さい仮設的のものでも母屋と同じ形、同じ作りである。

かり、遠山家の「素人的工法」と面白く対比されよう。

民家の集落

この地特有な大家族茅葺合掌作り建物が、ややその数がまとまって集落体をなしているのは鳩谷（国鉄バス白城線終点）や、その少し手前の萩町である。四方山にかこまれた盆地で、僅から平坦地は殆ど全部水田である。

その田の中を最少面積盛土して1戸1戸が或る距離を置いて営まれている。その殆ど全部は屋根裏階が2層で、同じ方向に妻を向けてつつましくたたづんでいる。この大きな母屋に附属して建てられている肥料小屋、堆肥舎などまで、同じ様式の合掌造り茅葺、柱は5〜6寸角、厚板を嵌め落し式に入れて壁とし、母屋と同じ方向に建てられている。大きな木柄、総檜なんて都会地では見られない傲勢さではあるが、木材の豊富だった昔のこの地では却て3寸や3寸5分角の小材にひき割る事は高価であつたかも知れない。

合掌造りの民家集落とは云つても、そういう構造のものは多くても十数戸、普通は数戸集まっているにすぎない。他はすべて屋根勾配 17〜18 度位の非常にゆるい板

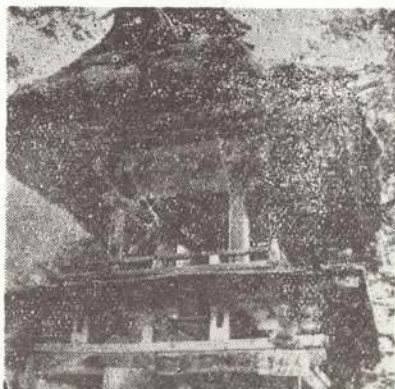
葺石置き屋根、妻や軒は4尺5寸程も思い切つて出した雪多い山地特有の形式の家である。間取りは合掌造りのものと大同小異らしく、又殆ど2階建てであつて2階部は養蚕に使われているようである。

即ち合掌造りのものは皆相当年数を経た古い家であつて近代のものは凡て後者の様式によつてゐる。これは茅の需給関係と労力の面からそうなつただろうと思われる。

屋根葺きの茅は大体20〜40年位の寿命があるのだが、而し屋根が大きいだけに1戸を葺き替えるには相当量の茅を要する。而し之を栽培する茅場の面積は非常に乏しくて且つ貴重であるので分家をしてこの茅場だけは分与をうけられない慣習になつてゐる。それにこの葺替は自己だけの労力では出来ず、さりとて専門の職人がある訳でもない。合掌屋根に住んでいる彼等は皆共同体で、各戸の順番をきめて自分の畑に出来た茅を持ち寄つて彼等共同の労力によつて彼等自らの手で葺き替えをして来ている現状である。この労力交換と茅場の隘路があつて今後こういう屋根の家が数を増すとは考えられない。それから往昔こういう民家を営む場合、1階部分は大工の技術によらねばならないが、下家部分内屋根裏層の部分は皆部落民総出で、その素人の手によつて作られたものである。即ち彼等の共同合作の美しい民芸品であるが、近時の思潮からは共同作業にやや難があり、それに大工技術が分業化しているので板葺屋根として屋根まで大工にまかせてしまえば何の煩しさもないという事や、最近の交通の発達、附近の工鉱業の開発などによつて労銀が容易に得られて分家が自由に行われて大家族の必要がなくなつた事、又養蚕をしなくとも生計が立てられてゆくこと、こうした事情などを考えると、白川村特有の風俗慣習、民謡や語り、（この地の民謡や語りは素晴らしく傑出している）言語、人情、日用品の形、そういったものは現在あたりが最後の名残となるのではないだろうか。

庄川は電源開発にかつて大きな社会問題を起したが、それが解決されてから至る処にダムが築かれた。又最近遠山家のある御母衣のやや上流あたりに出力の素晴らしい大きいダムが築かれようとして既にボーリング工事にかかつてゐる。この僻地もこうして近代産業に大きく寄与しようとしているので、益々この地の異風は急速に失われゆくだろう。

株式会社 奥村重兵衛商店 大阪市北区木幡町三番地 電話 堀川 一〇一七番番	合理的工法・責任施工	防錆完全・中空防音	耐震・耐火・軽量・堅牢	採用下さい	は進式を御	を軽量鉄骨	に軽量鉄骨	間仕切天井



写真⑪
明善寺山門

上層は鐘楼となつている。警電板が見えているのも田舎らしい。



写真⑫ 中野御坊中門

周囲の者すべてから雄反されてわれ一人のみ——という形。これはいつまで続くやら。



写真⑬ 中野御坊鐘樓

壁の板には火頭竜と菊花の彫り抜きがされている。床の低い玉石の上に簡單に置かれた建物。

ここで私はブルーノ・タウト氏の日記抄の「飛騨白川」の一節を御紹介しておきたい。同氏の訪れも私達と同じように相当の大雨だったらしい。そして平瀬、御母衣の方面だけで、鳩谷方面まで歩をのぼされなかつた様子である。文中の郵便局とあるは遠山家に隣接して設けられ、遠山氏が局長をつとめて居られる。写真⑪の右端に白ペンキ塗板壁の見えるのは、同家から郵便局への渡廊下である。

—1935—5—18—

そとはどしや降りである。9時に来る自動車がなかなかやつて来ない。私達は借物の傘をさして2軒もあるかねばならなかつた。荷物はあとから自動車でくることになっている。

すつかり足をぬらして御母衣の一番大きくて立派な家

(遠山家)についた。ところがこの古い家に俗悪な郵便局の建物がくつついている。これも自動車文化の余波である。

この辺の家は60度もの峻しい勾配をもつた蘆葺屋根である。構造は極めて論理的、合理的で、日本ではまづたく例外に属するものだ。屋根は4層あり、合掌屋根はドイツの家屋そっくりである。——云々

その他の建物異色

比較的新しく建てられた民家は既に前に述べたように板壁石置屋根、その勾配も17〜18度位の極めてゆるいもので、妻、軒共4尺5寸程も出ている。この深い出を支える出し桁や持送りの木鼻には線形が施され、板持送りには雲形彫刻がなされている。こういう作りの家も非常に落ちついて、中には環境にとけ込んで全く美しいと見たものもあつた。も少し時間に余裕があつたらいい掘り出し物が得られたのかも知れない。只私達のこの時の眼は合掌造り屋根のものばかりを飢えたように求めているので、こういう比較的年代の新しいものを見定める時間が乏しかつた事は名残惜しかつた。

面白く見たのは萩町の明善寺である。本堂、庫裡共勾配の急な合掌造茅葺で、殊に庫裡は古風民家和田家あたりのものと殆ど異典はない。

山門は二層建て、上層は4脚式の鐘楼となつているが、屋根を茅で厚く葺いた入母屋式である。割合新しい建築ではあろうが、厚い茅葺であるだけに非常に重苦しくて不安定相ではあるが素晴らしい異色を以て私達の目をうばつた。当寺の建物も民家研究家の食慾をそそるものだろう。

又、中野に所在する御坊がある。照蓮寺と称されている。

盆にやござらぬ 祭にや見えぬ

ござれ9月の 回 檀に。

おらもゆきたや 中野の御坊へ

参りたいよな お絵巻を。

などと民謡にも唄われ、例年9月の仏会には飛騨高山の本坊から使僧が派遣されて大いに賑いを呈する由である。鳩谷に現在礎石のみを残している嘉念坊開基の坊をその10世明心が永正年間、鳩谷からこの地に移したと云われている。これは又天正の末に高山へ移されたとも伝えられているが、ともかくこの坊は本尊阿弥陀如来、始祖は善俊上人(後鳥羽院12皇子)だという。

建物としては中門がある。「開かずの門」とも云われ1間1戸4脚門、切妻造檜板葺、方柱、まばら挿、天正6年の建築とも云われている。往時代官以上の身分の者でなければこの戸は開けられなかつたというので、庶民には殆ど開いた処は見られなかつた事だろう。この門から両側へのびている筈の築地塀は倒れ朽ちて今はなく、僅かその端の方に痕跡を止めているのみ。「開かずの門」は全く孤立して今では、開ける要のない門となり切つ



写真⑭ 白川路の一点描

段々畑の彼方深くて厚い木立の繁み、越し方、行手の道は羊躰の如く見はるかせる。

ている。それでもこの2枚の扉は、時代が移り世が変わっても依然としてお役目大事とばかり、嚴重そうに門をかけて力み返っている。これは笑えない一つの人間の姿かも知れぬナ——と思いつつ、それでもこの道化芝居を見て私は微苦笑を禁じ得なかつた。

この中門を這入つて右手に建つ方3間の簡単な建物がある。鼓樓であつて、望樓様のものが屋根の上にのせられ、そこの板壁には一方に火頭窓、他方には菊花を陰と陽に影りぬかされている。ここに太鼓が置かれたらうか、現在では「建武元年3月12日安国寺」の銘がある梵鐘がある由だがつづさに見学する時間の余裕がなかつた。この鐘はもと吉城郡国府村の安国寺のものが移されたと言われている。

バスは晴々とした空の青さの下を強い陽射しをうけて北濃へと急ぐ。

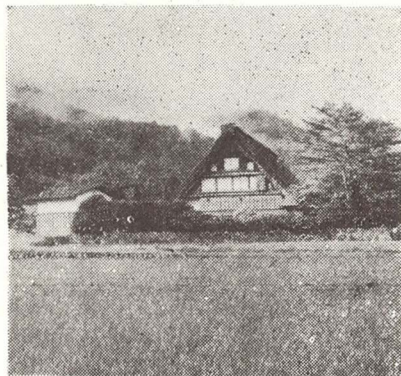
美しく山の傾面を耕された段々畑、集団した家並み、影の深い老樹の繁み、空気のさわやかな味、空の美しくも深い紺碧の色、昨日までの大雨ですつかり今日は見違える程の山気の清新さである。バスを途中で停めて窓外を楽しみ、深々と深呼吸した事も数次だつた。

長良川、庄川にかけてこのバスの白城線の景観は何に

たとうものもない素晴らしさである。殊に秋の錦繡は目覚むるばかりだろうと想われる。土地の人々からも秋には是非も一度訪れてくるようにすすめられた。彼等にも秋の景観こそ誰れにも誇れるものと自信をもっているらしい。

この方面の紅葉は近畿方面より2週間程早く、10月下旬から11月上旬ときく。あの山姿あの谿谷、そしてあの清流あの白石が黄葉赤葉に飾られた風光を想像すれば、私の旅情は無性とかり立てられる。

尙この見学行に種々とお膳立てを願つた白川村々長東馬武雄氏、御案内を願つた同村観光係員宮垣秀雄氏、それから民風や当地の傑出した民謡や語りについて、上手な話術で解説を賜つた当村中学校校長和田繁氏に対してここに改めて厚く御礼を申し上げたい。



写真⑮ 白川村萩町和田家

母屋の白い障子、土蔵の白い壁、それをつらなる石垣と生垣、きり立ちのぼる山を背にしてまるで詩の境地である。

お断り

この玉稿は昨年の九月に預いて、種々の都合から延々になりに、遂に今日に及んでしまつた。御多忙中にも拘らず、御執筆を頂いた各位に対し誠に申し訳ない次第である。又読者諸氏にもお詫び致します。 係。

(16頁よりつづく)

お許し願います。どうも有難う御座居ました。

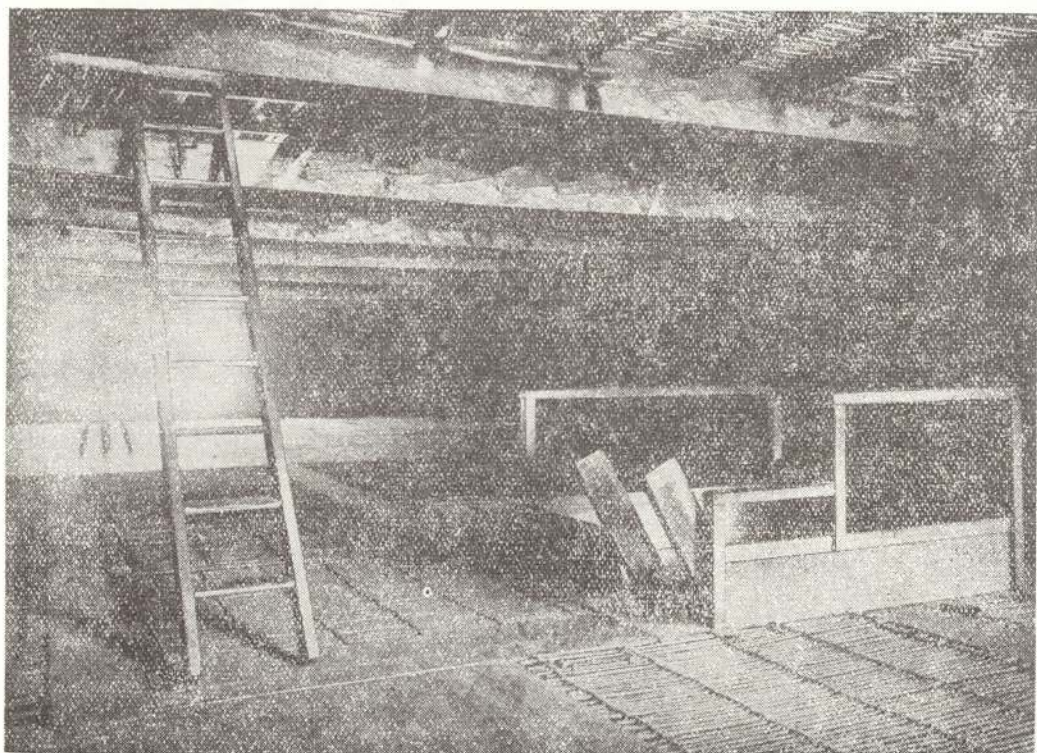
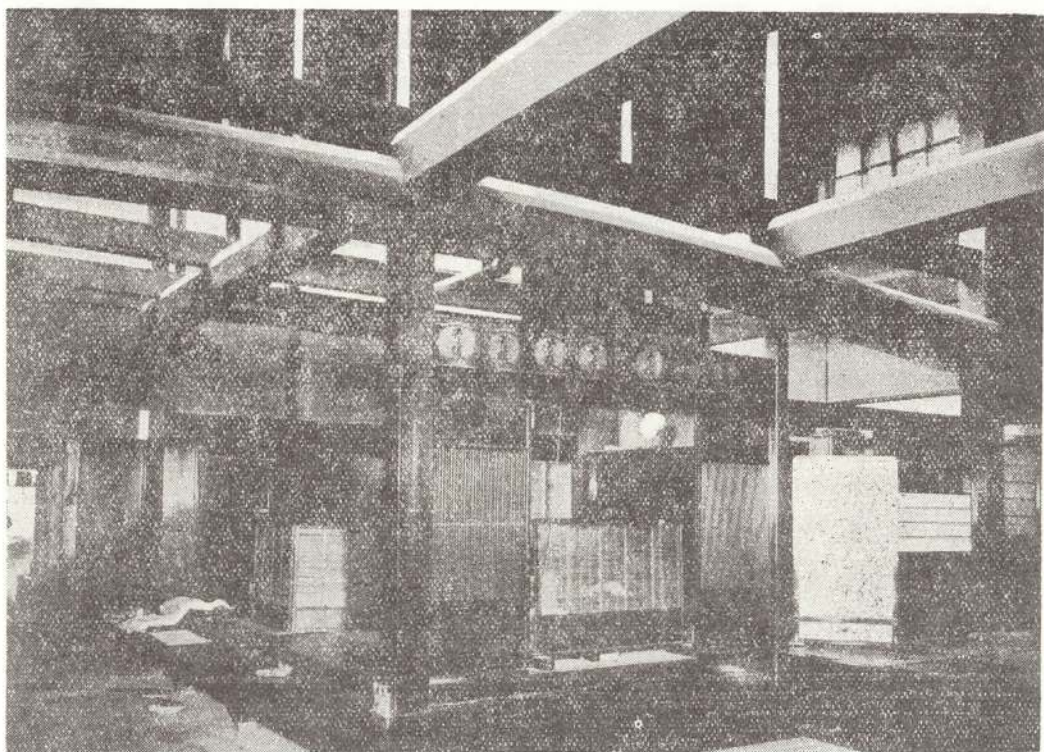
驚尾 どうも長時間有難う御座いました。申し上げました通り色々違つた方面の方と、今後とも座談会をやる計画をして居ります。外の方面の方との座談会の時にもどうぞ御遠慮なく、御出席下さつて意見を述べて頂きたい。大分問題が進んだと思いますが、色々の御意見があれば、文書なり直接にでもお教え下さい。今後ともよろしく御協力をお願いいたします。

建築写真

ユニヴァース写真工芸社

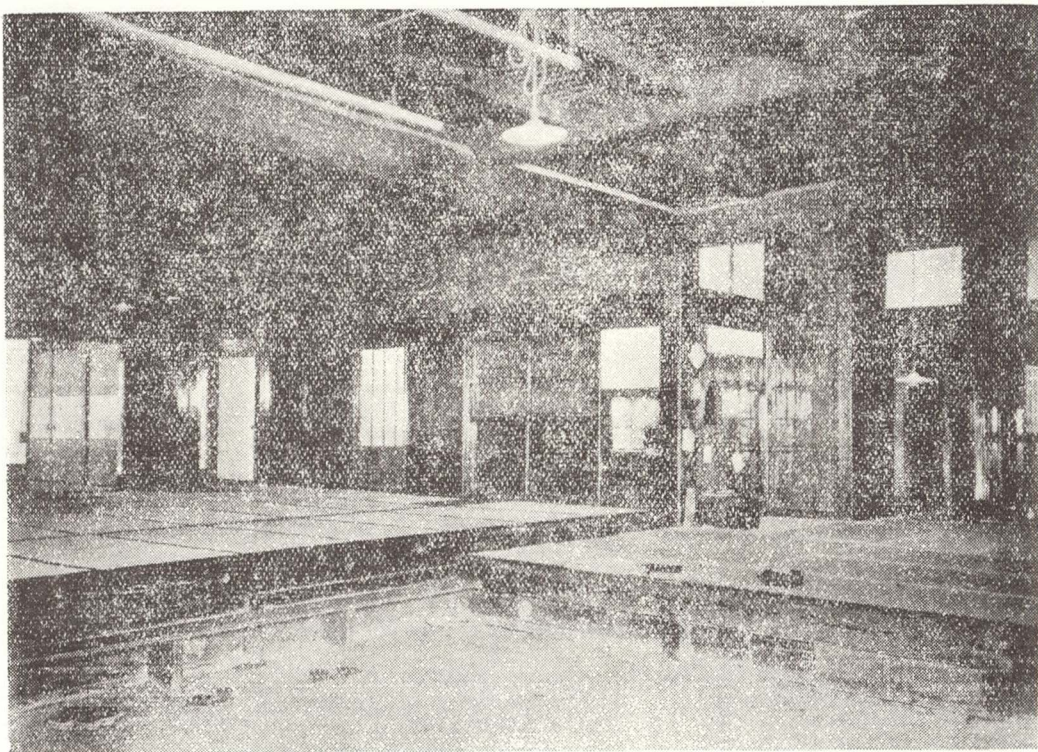
森 庄 次 郎

大阪市南区笠屋町4番地
(低周防町三休橋筋角)
電話 南 ② 〇 2 4 〇 番



写真説明上より

1. 岐阜県高山町日下部氏宅内部
2. 岐阜県大野郡白川村御母衣遠山氏宅つし（2階）



写真説明上より

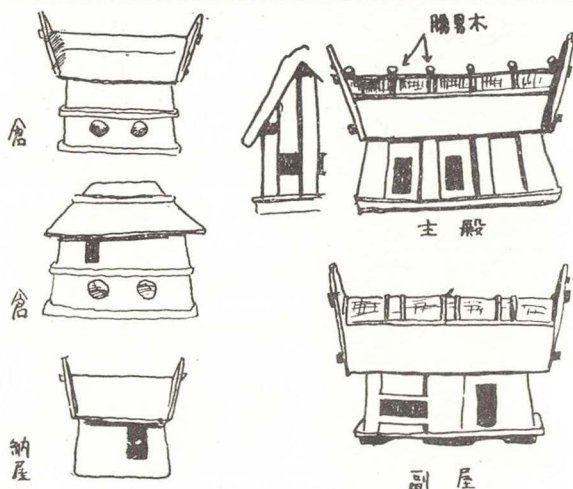
1. 岐阜県益田郡下呂村少ヶ野地主の家 (2)
2. 岐阜県大野郡白川村鳩谷藤井氏宅内部

(大塚巧蔵社発行民家図集より轉載)

私たちの 建築史

(4)

林 野 全 孝



第 24 図

前期——その 2——

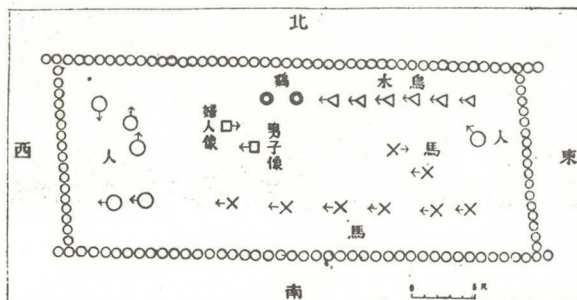
大きな古墳を造らせ、立派な服装を着た貴族、豪族たちは、どんな住居を持っていたらう、又、神社建築は住居と関係があるかどうか、又なぜ神社が発性したのか、本編ではこれについて考えて見ます。

住 居

壇輪より——AD 400 年頃より後のことですが、古墳に盛にハニワが用いられます。これは、第 23 図のように、円筒のハニワが、柵のように古墳を取り巻き、その中に武人や男女の像や鳥、馬や、特に棺の上あたりに、家屋のハニワが並んでいます。恐らくは死後の生活を表しているのでしょう。この内、群馬県赤堀村の茶臼山古墳(AD±400) から出た10個のハニワ家は、どんな配置をしていたか残念乍ら解りませんが、非常に面白いものです。(第24図) 恐らく配置は、主殿の左右に副屋が並び、6 個の倉がその後方に並び、納屋(?) が隅にあつたのでしょう。この頃シナの影響も十分に考えられます。このような建物が、第 1 期には絶対に無かつたことは、遺跡からはつきりわかります。

このような家は、貴族、豪族のもので、一般人民の家ではなかつたようです。考古学の方では、この頃の住居址はいぜん第 1 期の延長的なものでした。(第25図)

ハニワを作つた人達の集団住居址が大阪市杉本町にあ



第 23 図

ります。小林行雄氏はこれについて、「ハニワを使用するような人々は、立派な住居に住んでいたが、ハニワを作る身分の人は、いぜんとして堅穴に住み、恐らくは、階級の上下差で、住居も差があつただろう」と言っています。(考古学概説)

鏡より——奈良県の佐味田古墳(AD±350) から出た日本製の鏡に 4 種の家が彫られています。(第26図)

A は登呂式の堅穴住居、A、C は上流の住居で、第24図的なものでしょう。屋根は但し第27図のように、入母屋になつていたようです。D は倉に違いありません。(古美術誌 195 号、堀口博士論文参照のこと)

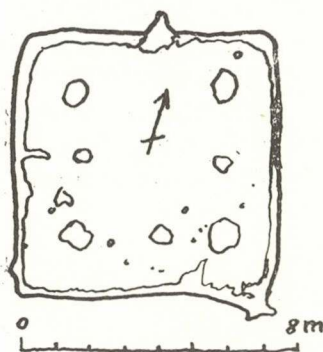
A、C、には、長い笠があり、後世の神事に使うキヌガサの原流が見られますが、この笠が神事に直につないで考えるのは危険でしょう。

其の他いろいろの実例で見ると、屋根は切妻、入母屋、四注、鑊、或は登呂式と、種々見られ、その側面は、現在神社建築に見るものと大変似ているのがあります。

文献より——

古事記、日本書紀は、第 2 期の中間(AD±700) に書かれたものですが、前期(古墳時代)についても参考になる記さいがたくさく見られます。そうすると、文献のみによるのも、又実物のみによるのも危険で、両方から正しい考え方を見出さねばなりません。さて、住居についてですが、たくさんある中からいくつか引いてみましょう。

書紀第15弘計(顯宗)紀に、ある豪族の新室が出来たので、天皇が酒宴の最中に、室寿(むろほぎ)して舞います。その言葉に「築立つる稚室葛根(わかむろつなね) 築立つる柱は此の家長の御心の鎮なり、取挙ぐる棟梁は……取置ける椽梁(はんぎ=タルキ)……取置ける蘆葦(えつり=屋根葺下地)……取結べる縄葛(なわかつら)は



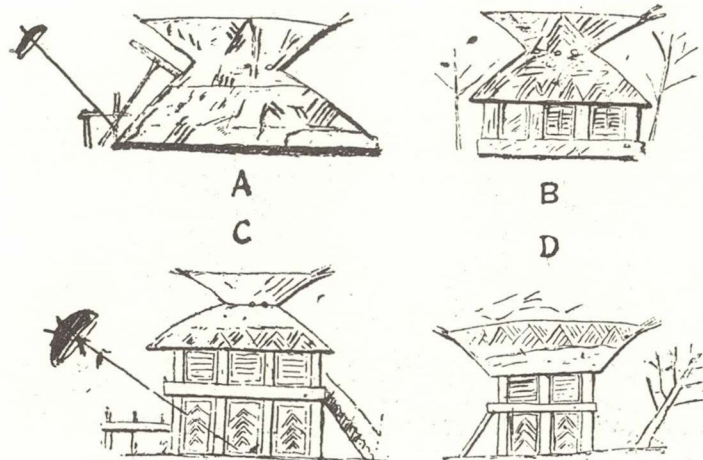
第25図 東京小豆沢住居地

……取替ける草葉（かや）は……」とあり、又神代編第2に、天日隅宮について、「千尋の栲縄（たくなわ＝栲の皮でなつた縄）をもて結びて、百八十紬にせん、その宮を造る制は、柱は則ち高く太く、板は則ち厚くせん……」又橿原の宮を「底つ磐根に宮柱を立て、ひ木（干木）高しりて……」とあり、又高津宮が、質素であつたことを、宮垣室屋壁色（うわぬり）せず、桷（はえぎ）梁柱楹（うだて）みがきかざらず茅茨くとき茅しり整えず」とあります。又、雄略紀に、カツオ木が宮室以外に使用出来なかつたことや、紀第1に、スサノオノミコトが木材の用を定めたとして、杉、樟は舟材に、檜は宮室材に、桧（まき）は人民の住居や寝床に用いることをきめています。但し、実際は人民の住居は杉が多かつたようです。

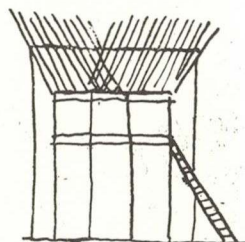
以上奈良時代的な見方も這入っている事は十分注意して読まねばなりません、前の実例と合せ見て、

① 柱は堀立式、宮室のもの太く高い。② 梁、うだてあり、③ タルキ上に葦下地をおきカヤをふき、そのしりを切りそろえる。（神社、農家にみる）④ 床板は

第26図 鏡に彫られた家



第27図 奈良県外山



第9図補図 銅鏡に描かれている倉

厚く広い。⑤ 干木があり、カツオ木は宮室の重要な象ちようである。⑥ 仕口、継手は簡単で、縄でしめていた。⑦ 宮室は檜を用いた。⑧ 屋根は、今日見る程の種類が出来ており、⑨ 宮室建築は、神社建築に良く似ていた。といったことが解ります。

神 社

神社建築は1953年の今日も、大変古い要素を多分に持っています。中でも、出雲大社、住吉、大鳥神社、伊勢の唯一神明造り等は、最も古い様式を止めています。

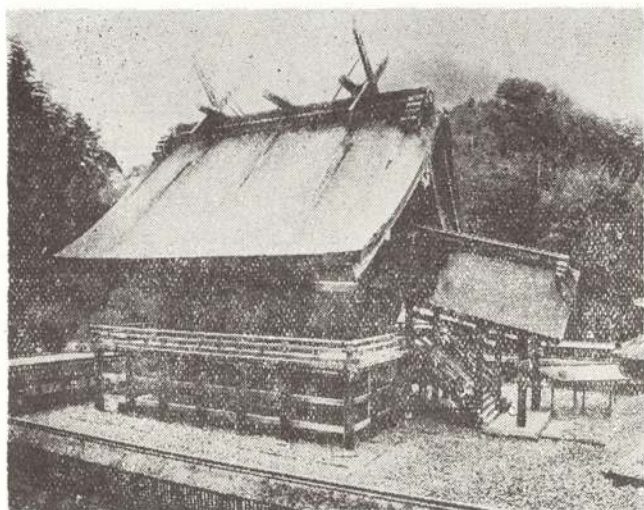
（第28図）この建物と、第14図、第17図、第9図補図、或は第24図の特に主殿と倉、第26図の特にC及びD図と比べてみて下さい。良く似ていますが、その内でも、倉とは最も良く似ています。更に、第24図の主殿と第26図Dの図とを重ねて考えて下さい。正に神殿は、倉に主殿を加えた様式を表しています。

さて、このような高床の倉は、第1期の後期、ヤヨイ式時代に、農耕の収かく物たるモミを入れるために用いられ、その様式に、第2期前期の古墳時代に、支配者の宮室の主殿の様式が加つたとすると、神殿の様式は決して住居そのものでも、倉そのものでも無く、何か別の発生をしているようです。そして形の上からのみ判断して、その発生はAD±200年以後、となり、完成されたのは、恐らく、AD±400年ということになります。

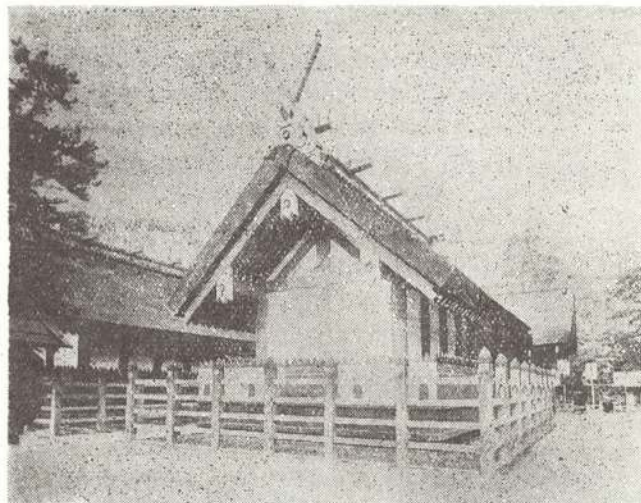
文献より——紀にも出て来ますが、国家のことを社稷

（しやしよく）といいます。これはシナの言葉で土の神、農の神ということです。又朝鮮、満洲でも、新穀を祭るマツリが、秋に行われていました。AD±200年頃、三国の魏志韓伝にも、農耕の神事が出ていますが、丁度サカ木を建てるように、大木を飾り、鬼神を乞い、宴をはつてマツリます。日本の神の名にも、農畝入姫命、太田田根子等農に関係深い神の名があり、大嘗祭は、日本の最も大事なマツリであるのも御存じの通りです。

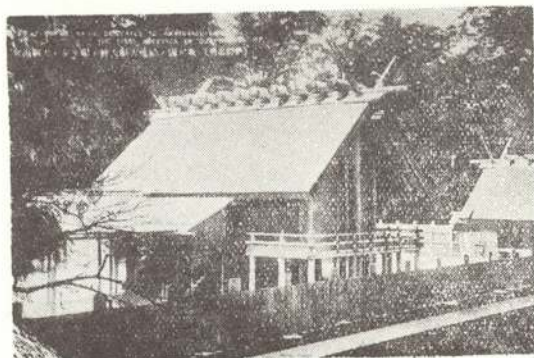
第1期の前期（縄紋）の宗教は、



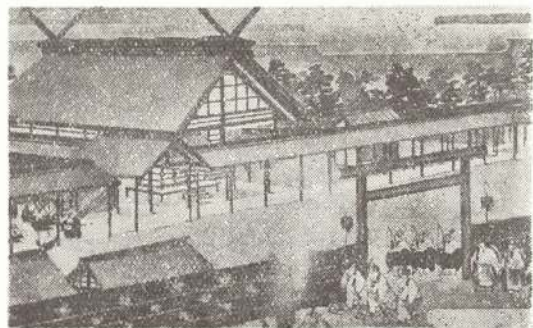
第 28 図 A 出雲大社本殿



第 28 図 B 住吉神社本殿



第 28 図 C 伊勢神宮正殿

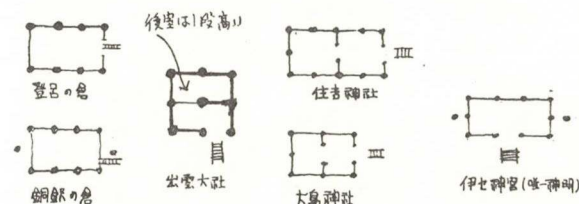


第 28 図 D 大嘗祭正殿

自然崇拜でした。その名残は、ずっと後世にまで続きますが、万葉集などでは、誰れかの持つていた物をその人と思うという考え方も伺われます。(神社考古学、宮地直一)

さて、農耕文化が発生すると、彼等は、天災を大変恐れます。そこで農がうまく行くように天神にいのります。そのかわり、無事収かくがあれば、彼等は倉にこれを入れ、その前に集つて農作を祝つたのでしよう。これが大嘗祭の起りです。凡そ世界の古代宗教が全て、農耕社会の産物であつたように、我が国でも、次のドレイ制社会にす。倭、これら農民のマツリをも支配してしまひま人伝に、A.D ± 240 年、ヤマタイの国(日本)のヒミコという女王が、宮室楼観、城柵をめぐらし、兵を置き護らしめたとあります。鬼道は前述の天神を意味し、宮室楼観は堀口博士によれば、直に出雲大社の如き建築であつたろうということになります。この全体のプランは、伊勢神宮の配置のようではなかつたでしようか。(現在の神宮の配置は大分変遷しているが)。又、ヒミコという女王が、イコル神格であつたことは注目すべきで、支配者が神の地位に高められていたことが解り農耕社会をその支配下においたことが知れる。ここに於て、農耕社会の神聖なる倉に、この時代の神聖なる宮室主殿が加つた建物が乃ち神殿であつたことが、うなずけるのです。

一例として、「クラ」は「座」「踏い」等あり、天皇の即位を、高御位(又は座)と記紀に出ており、タカキクラに登るを意味し、神格化されるのを意味するのでしょう。しかし、神社が全国にばらまかれるのは、少し降つて A.D ± 400 年後のことでしょう。紀の崇神天皇の項より、農民の反抗が書かれて来ます。又、人格と神格の分離が知れ、ここに、



全国を統一する手段として、祖先神（天神、地神）を各地に置きそれと共にその地方の豪族の祖先神をも併せて政治目的の有力な手段として現れます。その時神体は、

祖先の伝世品にそのタマシイがあると考えたのでしよう。易経に、「神道は聖人が教え説いて民を服する道」とあり、これらシナの影響も見逃せないであろう。

丁度この頃の建物が、前述のハニワ家や家屋紋鏡に連り、それがAD±400年ということになります。（拙稿学会報11号、又、本年6月の学会報及び近くけいさい予定の拙稿史述と美術誌に、更に詳説するので、参照されたい。）

——次号へ続く——

“THE RISE OF THE CITY.” と INTELLECTUAL HISTORY.

徳 田 顕

“The Rise of the City”. (都市の興隆) は Arthur Meier Schlesinger 及び Dixon Ryan Fox 両人の編集による “A History of American Life”. (アメリカ生活の歴史) 全12巻のうちの第10巻目のもので、近代におけるアメリカ合衆国形成の基盤ともなった都市の興隆を、主観的な歴史認識、いわゆる Intellectual History (社会文化史) の立場から研究したものである。この歴史認識の方向は、該書の出版年代、即ち1930年代のアメリカ史学の特色であつて、アメリカ史におけるモダン・エラ (近代) の形成と期を一にして、19世紀末より、純客観的な歴史認識の立場から擡頭した、いわゆる科学学派 (資料の蒐集、書籍の解題等を重視する)、更には第1次世界大戦前後、新しく歴史家の要求として生れた社会経済史の反省としてあらわれたものである。さて、この Intellectual History (社会文化史) とは何かということである。これは18世紀の啓蒙思想に端を発し、アメリカ独自の事情 (民主主義的な政治、世界第一の高い生活水準、ぼう大な生産力等) に培われて、アメリカ人の確信となつている進歩の理念に立脚する。そして、実用主義と革新主義を背景として、現代の問題意識から出発し、現存の資本主義社会に存在する不正をただすという見地から、過去の歴史を研究し叙述する。とすれば、このような歴史認識の立場には、ある種の仮説が先在する。然し、自己を無にすることによつては、そのような仮説は見いだされない。問題を建築史の研究に限定し、そこに社会文化史的な歴史認識の立場をとるならば、仮説として

建築家、就中建築史家は社会進歩にあづかる重要な立役者として、学問をととして積極的且つ効果的に社会の動きに参画しなければならない。

ということがいえるであろう。このことは、建築史学の

重要性が著しく軽減される方向にある現在、その重要性を認識する一指針となろう。これは唯物史観の立場より建築史を研究するのとは全く異なるのである。

さて、次いで “The Rise of the City”. の梗概の略記を試みよう。即ち下記の如く14章よりなるものである。

- Chapter I. The New South
- II. The Great West
- III. The Lure of the City
- IV. The Urban World
- V. The American Woman
- VI. The Educational Revival
- VII. Increasing the World's Knowledge
- VIII. The Renaissance in Letters and Arts
- IX. The Pursuit of Happiness
- X. The Changing Church
- XI. Society's Wards
- XII. Political Factors and Forces
- XIII. Fin de Siècle
- XIV. Critical Essay on Authorities

著者 Arthur Meier Schlesinger はアメリカの卓越した歴史家で、オハイオ州クセニアに生誕、オハイオ州立大学を卒え、コロンビア大学で Ph. D を獲得、ハーバート大学歴史学教授である。

次いで、章を追つて該書の梗概の詳述を試みよう。該書の研究対象年代は19世紀末、即ち1878年——1898年の20年間であり、更に都市を近代化におけるアメリカ発展の基盤として、都市がアメリカで如何にして興隆し、ひいて、それが如何にアメリカの発展に寄与したかを社会文化的に究明している。このことは該書の巻頭の語句

“What shall we do with our great cities? What will our great cities do with us? These are the two problems which confront every thoughtful American. For the question involved in these two questions does not concern the city alone. The whole country is affected, if indeed its character and history are not determined, by the condition of its great cities,……”

The city is not all bad nor all good. It is humanity compressed, the best and the worst combined, in a strangely composite community”.
に明らかである。

さて、本文であるが、それは第Ⅰ章——第Ⅳ章は都市興隆の諸原因を究明している。即ち、先づ第Ⅰ章 The New South では、南北戦争後、新に北部の支配下となつた南部が、従来までの農業中心より産業中心へと変貌し、したがって農村は急激に膨脹して都市となつたと説いている。次いで、第Ⅱ章 The Great West ではやはり南北戦争後、西漸運動の結果、当地方にも都市に興隆を説く。それらの具体的な例として、アメリカ全土で1840年代には人口8千以上の都市は44を数えるにすぎなかったが、1890年代には547に達したと。如何に都市の興隆が急激であつたかを認知し得る。更に、特にシカゴの発展を詳述して強調している。即ち、19世紀前半までは西部の小農業都市たりしシカゴは各種産業の発達に伴つて、当地方の中心地となり、俄かに人口は増加し、ニューヨーク、フィラデルフィアに次いでアメリカ第3の都市にまで発展し、“The Queen City of the West”と称されるにいたつた。

又第Ⅴ章——第Ⅺ章は、かく興隆した都市が、国家の発展に如何に寄与したかを詳述している。特に第Ⅴ章 The American Woman ではアメリカ近代社会の改良者としての女性について、即ち都市に居住する女性の社会改良運動、女性の社会的地位の向上を説く。又家庭雑誌である“Ladies' Home Journal.” “Good Housekeeping.” がそれぞれ1883年、1885年創刊されたことを強調し、それと都市生活の進歩とを関連し考察していることは真に興味深いものがある。第Ⅷ章 The Renaissance in Letters and Arts では都市を中心として萌芽したアメリカ文芸が、この時代になつて、従来のヨーロッパ依存より脱却し、自国的なものとなり得たことを述べている。就中、建築の分野ではヨーロッパ依存の建築である浪漫主義的建築は次第に影をひそめアメリカ的な建築、即ち折衷主義的建築、ひいては機能主義的建築が、シカゴの Chicago School (シカゴ派) を中心として発展する。ここに著者はシカゴ派の建築家 Louis Henri Sullivan (1851—1924) の言葉である “Form follows function” (機能は形態に従う) を特に引用している。又、高層建築が大都市に林立し始めたのもこの時代で、

シカゴに建築家 William Le-Baron Jenney (1832—1907) によつて建てられ、1886年完成をみた Home Insurance Building (住宅保険ビル) を高層建築 (鉄骨構造) 即ち摩天楼の父としている。第Ⅹ章 The Changing Church では都市の興隆に伴う教会の変革、即ち教会は宗教的儀式の場所以上に都市生活と関連する慈善事業の場所たる必要性をもつようになった。更に僧侶は神の使徒として聖壇に膝まづくよりは寧ろ、社会の善導者としての活躍を求められると。又、第Ⅺ章 Society's Wards 第Ⅻ章 Political Factors and Forces では都市生活に附随する貧民或は貧民街の救済、更には市政に附随する収賄或いは顔役の晴躍等の粛清をとりあげ、都市発展の一面を究明して、終章に至っている。

このように概観したつて、都市研究 (都市発達史) をとりあつかつたものとして、該書の特異性を認知する。もつとも、文化史的な立場より都市発達史をとりあげたものとしては、下記の如き例がある。即ち

Fustel de Coulanges

“La cité antique.”

Erich Ziebarth

“Kulturbilder aus griechischen Städten.”

Lewis Mumford

“The Culture of Cities.”

等である。これらの難点は、都市自体を社会や経済の事象と関連のない独立した部門においてとり上げ、相互の組み合わせが稀薄にすぎるといふ点にある。ここに、文化史と社会史 (経済史) との総合即ち社会文化史が必要となろう。もつとも、前述したところは都市発達史のみをとりあつかつたのであるが、更にこのような研究の方向は建築史の他の分野にもとられるべきであると思う。そして、ここに前述の仮説の意義をいかしたい。ここに建築史の新しい意義がみいだされる。さて、ここで、この小論文のペンを置きたいと思うのであるが、最後に社会文化史即ち Intellectual History であるが、これは且つて京都大学でアメリカン・セミナーが開講された時、歴史部門の講師であるスタンホード大学教授 Knowls 博士より教示されたものであることを加筆しておく。
(阪大、文学部、西洋史研究室)

×……………×……………×

×……………×……………×

×……………×……………×

内海町章審査会

7日(土) 2時~5時於朝日事務所、開催審査員森田慶一、矢野橋村、渡辺賢一、中野順次郎氏並内海町側谷口助役外三各外事務局長大和理事等10名、慎重審査の結果3月号掲載の通1等岡林秀郎、2等山口正夫、宇津木松二、佳作田中正外4名決定した。

定例理事会

11日2時於朝日事務所東畑副会長外8名、燃えない都市建築展開催の件、記念事業特別支出の件、文化映画会開催の件、28年度収支予算編成の件、国際文化会館建設資金委員より申越に係る本会理事承認の件、入退会詮衡、1月分収支計算、記念事業経過、内海町章審査会、大阪府建築士会より事務所費一部負担の件、2月見学会午餐会、教育委員会事業大阪府住宅復興協議会事業、設計監理協会新発足等事業経過並報告を了した。

東洋リノリウム見学会

18日会勢委員会主催東洋リノリウム伊丹工場見学開催1時大阪駅東口集合借切バス2台分乗2時半同工場集會室にて森信同社長、増田工場長等挨拶並説明後6班に別れ工場見学、再び集會室に於て質問応答あり、竹腰会長謝意を表し床材についての感想を述べ同社の発展を祈る旨挨拶後再び2台のバスに分乗大阪着5時30分解散。会する者82人近來稀な盛會であつた。尙同社からは実用的にして優美さん新カタログを寄贈された外バス其他種々と本見学会に便宜を与えられた事を紙上を通じ厚く感謝する。

定例午餐会

19日正午於東区大阪府労働会館開催竹腰会長外45名、大和常務理事開催挨拶後当日電気事情の關係上講演を先行し工博尾崎久助氏紹介同氏は欧米視察の大要を述べた後スライドに依り主としてアメリカ建築を紹介、一時午餐を共にした、最後に竹腰会長挨拶次回建材部門に幹旋方依頼散會。

之からの建築教育座談会

19日午後2時~5時於大阪府労働会館
鷲尾委員長外委員学校側並綜合建築事務所等25名出、

中野理事司会の下に別項の通意見開陳、(速記會誌掲載)最後に鷲尾委員長挨拶閉會。

建材審査会

27日3時~5時於朝日置塩委員長外7名出
デコラ、マーブリック、ラテイ等審議した。

工業高等学校卒業生表彰

今年度卒業の優秀学生に対し本会より表彰状を呈した。(東海、近畿、中国、四国、九州方面關係学校)

大阪府建築士会

4日3時より於朝日事務所、渡辺会長外定例役員会開催。

関西建材会

4日午後青木幹事長、石井幹事、井口囑託等合
保全会の件協議。

5日3時 於朝日事務所欧米視察歸朝者日建設計工務KK社長工博尾崎久助氏より欧米建築事情並建材等講演會開催、同氏は講演の外スライド使用説明建材会青木幹事長外30名出席

10日正午 於朝日事務所關係業者に保全会説明。石井幹事外協会事務局応援。

23日正午 於朝日事務所青木幹事長外10余名
總會開催其他会務協議引続保全協会設立に關する件につき発起人會として協議を続行したが審議の結果保全協会設立は此際一応中止する事に決定善後処置につき打合せ散會。

日 記

5日午後5時より於朝日事務所田島応用化工KK外三ツ星會10余名會合

12日日本建築学会より會長石井桂氏当選通知に接した。

11日午後 青木理事大和常務理事ガスビル講演場借入並午餐會食堂借入等交渉。

13日 燃えない建築展關係者打合會高島屋開催、大和常務理事出席。

14日3時 於朝日協會事務室学会支部役員會開催

14日會員村野藤吾氏此日9時欧米視察のため大阪発東

杭

特許
特許

武智式鉄筋混泥土杭基礎工
日信三角型鉄筋混泥土杭基礎工
コンポジット、パイル(長尺継杭)基礎工
測量・地質調査・地耐力測定施工

特長 砂利充填による特殊施工法
支持力強大。工事迅速。工費低廉

説明書及び防潮ノ嵩上盛土地帯に於ける実績表進呈

株式会社 武智工務所

取締役社長 福留並喜

大阪市西区西長堀北通四丁目壹〇 細野ビル三六号
電話新町㊟九九五~九九八番

上。

24日 3~5 時 大阪建設業協会にては此日創立5周年を記念するため見本市会館にてパーティ開催各方面関係者多数参会、本会よりは竹腰会長列席祝意を表した。

24日 4~7 時 於朝日ビル協会事務所、工学院大学近畿校友会有志会合——東京より松本与作氏出席近畿谷民

蔵氏外20名集合支部設立。

28日 御西下中の皇太子殿下には近畿地方御見学を終えられ本日正午すぎ大阪駅発帰京された官民多数歡送。本会々長も関係方面より大阪駅頭御見送り、連絡があった。

28日 午前 中国支部青盛幹事来会、種々打合せた。

新刊「これからの住宅図集」

記念事業の南海羽衣一円地に建設展示せし、新住宅28戸並懸賞募集した新時代の住宅設計入選佳作図案20余種 B5版約30頁におさめた図が出来、一は優秀業者27社が競うて設計、実際に建築出品されたもの、一は新時代の理想住宅案として一般に好評を博している。

一部定価 ￥200.00 (会員一割引) 送料 ￥32.00

新刊パンフレット「アスファルト防水とセメント防水工事」

一部定価 ￥60.00 〒8.00

但会員一部 ￥50.00

新刊パンフレット「衛生工事」

一部定価 ￥100.00 〒 ￥16.00

但会員一部 ￥90.00

日本建築協会発行

申込所 朝日ビル事務所又は天神橋分室
日本建築協会事務局



誌を作る人々

(プロフィール)
山本武雄氏

編集後記

筆稿のバトンの手渡を受けるに鑑み、常にたゆまざる努力と情熱を編集に傾けて居られる編集委員長中村氏並に係員沖田氏の名コンビを始めとし之に絶大な協力惜まれぬ先輩各委員の方に万腔の敬意を表すものであります。局限された予算の枠内で完成した内容を盛らる事の苦心を感じずしておれません。毎月編集会議に自分は自己の勉学の為に出席させて戴く喜びに報ゆるべく益々本誌の発展を念願して居ります。生来愚鈍の自分には論理的に本誌をよりよきものに飛躍せしむ方法はもとより具体的な何ものをも見出得ませんが与えられた当番の己が責務を果たたく駄馬に鞭打つ心持で一二の抽象的なものを記述致します。

本誌に主として取上げて来られた代表の大建築は勿論重要な事柄でありますか……小建築(例えば)……茶房、洋品雑貨店、料理店等の一般商舖にも文化的且芸術的な創造された小物、各々それ等には客の吸引力、自然の文化生活を呼起す創意の窺われるものもあると思います。こ

の中で代表的小建築物を紹介して其の掲載料を出費願う事は無理ではない様に思われますし本誌の利用がより有意義ならしめるなら正に一石二鳥ではないでしょうか。広告に就いて述べますなれば……実質の良点を持つた商品又は秀逸せる物で如何なる場合に於ても信頼される事が必要でありましょう、良品は世に出る事は述べる迄もなく明らかですが複雑せる現近社会に於ては期間的問題もあり広告に依りて存在を認識せしめ速により良き結果を納め得ると云ふ事であります。幸ひ本誌は建築に直接繋がりが有り有効であると思ひます同時に広告は大なる役割を果たすことになります。然し広告の真の意義はあく迄も良心的のものであらねばなりません。敢えて多言を必要しない事です。以上によつて最良の結果を得られることを望みます。では次の後紀のバトン栗原信虎編集理事にお願い致します。(山本武雄編集理事記)

建築と社会 第34輯 第4号

売価1部80円(送料共)

昭和28年3月25日印刷・昭和28年4月1日発行

編集発行人 沖田 誠

発行所 社団法人 日本建築協会
大阪市北区中ノ島3ノ3朝日ビル
電話 北浜 1334~9番
振替口座大阪39975番

大阪市北区堂山町66
印刷者 網野 栄

大阪市北区堂山町66
印刷所 株式会社 研文社(電話豊崎2056番)



兵庫相互銀行本店

新築概要

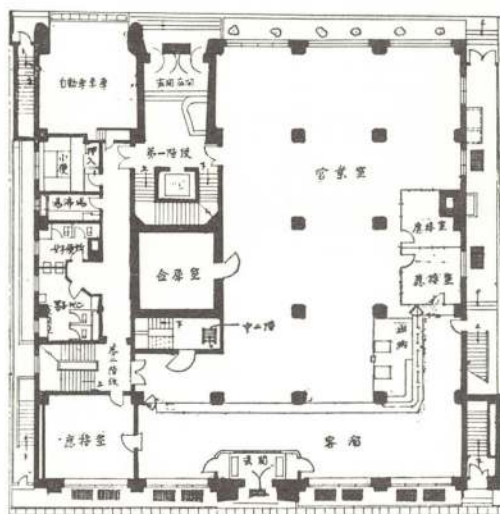
位	置	神戸市生田区三宮町一丁目
工	期	起工 昭和 27 年 1 月
		竣工 昭和 28 年 3 月
敷地面積		294.45 坪
建築面積		237.27 坪
建築総面積		1707.00 坪
階	数	地下 1 階 地上 6 階
主体構造		鉄骨鉄筋コンクリート造
軒	高	29.06 米
設計監理		株式会社 安井建築事務所
主体工事施工		清水建設株式会社

冷暖房、換気、衛生設備施工

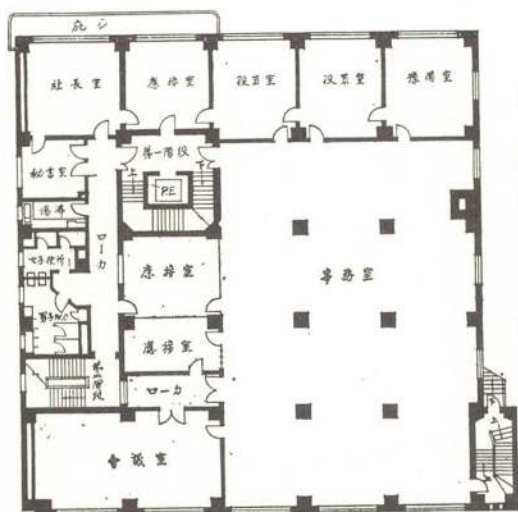
須賀工業株式會社



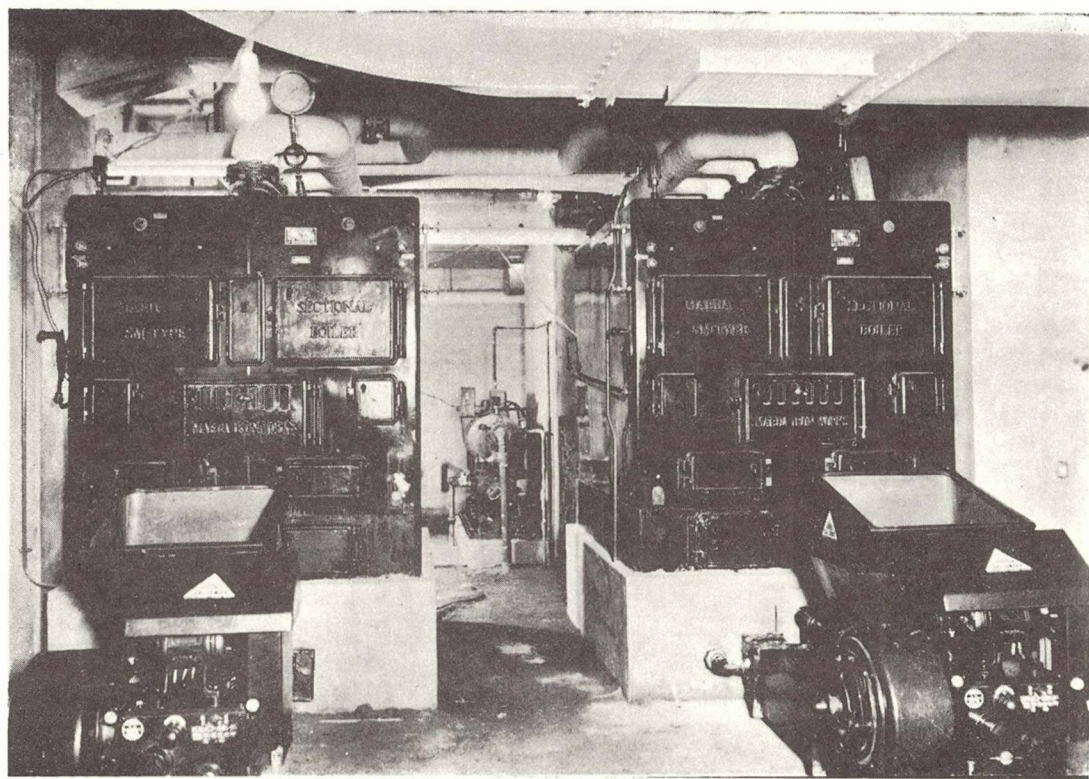
地階平面図



一階平面図



二階平面図



本設備に使用せる主なる機器及器具

冷凍機	40屯×60HP	1基	ボアールホールポンプ	3"×10HP	1
ウォータークーラー	430 $\frac{3}{4}$ "×3.000 $\frac{3}{4}$ "	1	上水揚水ポンプ	2"×7 $\frac{1}{2}$ HP	2
コンデンサーポンプ	2 $\frac{1}{2}$ "×5HP	1	井水揚水ポンプ	2"×7 $\frac{1}{2}$ HP	2
サーキュレーター	2 $\frac{1}{2}$ "×5HP	1	消火ポンプ	2 $\frac{1}{2}$ "×15HP	1
送風機(冷暖房用)	No. 2× $\frac{1}{2}$ HP	1	堅軸汚水ポンプ	2"×2HP	2
排風機	No. 6×7 $\frac{1}{2}$ HP	1	排水ポンプ	2"×1HP	2
送風機	No. 4×3HP	1	和風大便器	C-75	27組
セクショナルボイラー	S-5M-10	2	小便器	U-23	23
自動給炭器	米花L-6	2	洗面器	L-1	1
真空ポンプ	3HP	1	〃	L-92	27
温水加熱器	400 $\frac{3}{4}$ "×1500 $\frac{3}{4}$ "	1	理髪用洗面器	L-19	2
ルームクーラー		20台	手洗器	L-57	4
放熱器		75組	スロップシンク	SK-22	8
屋上上水槽	1800×2700×1800 $\frac{3}{4}$ "	1	流し	SK-18	1
屋上井水槽	1800×2700×1800 $\frac{3}{4}$ "	1	水石鹼抽出器		28
市水受水槽	1800×1800×1800 $\frac{3}{4}$ "	1			

●第三四集 第四号 掲載広告一覧（掲載順）

日本耐火建材
満点製作所
日新工業
田島応用化工
東洋陶器
内外土木建材社
日本ドアーチエック製造
協和製作所
河津裝飾
久保商店
大阪城口研究所
大阪電気商会
桐田商会
齊久工業
三機工業
須賀工業
西原衛生工業所
建材社
栄興商会
三晃商会
東海電気土木
浅海電気産業

近畿電気工事
中央電気工業
田村商会
水島商店
ライト青写真工業
大阪コンベス建材社
大島応用化学工業
三舟窯業
三幸商会
吉田芳雄商店
福昌
山本窯業研究所
山本建材社
日本金具製作所
岩元工業
三高製作所
ナニワ瓦
大仏組
樗野石灰工業
田中風呂製作所
シフカー工業所
東京鋼板工業

東邦商会
前沢商行
やよひスレート
鈴木シヤタア商会
室谷商店
大同鑄造
三星タイル会
大阪建材工業
佐渡島英祿商店
藤森工業
井上工材
ケーアールゴム
三和アスファルト化工
杉田組協栄
谷山鉄工所
福屋工業所
大正鉄筋コンクリート
尾北商店
川岸窯業
応用美術研究所
田中工業
玉置産業
清光社
油脂化工社

木下謹三商店
大建工業
日本セメント防水剤製造所
伊奈製陶